

帝國南進策

輸 入		輸 出	
品 名	大正四年	大正三年	大正二年
屬子團扇	六三、四八四	二一、二二五	三二、八三四
翫具	七八、三三九	四七、八五七	三七、八七〇
小包郵便物	一八、二〇三	一四、二三三	一〇、三三三
其他物	五三八、一九三	四二、七三九	四四七、三九〇
合計	七、七六五、六七五	六、七五五、六九三	六、三九九、七三五
砂糖	一、八四四、五六三	一、八二六、七〇〇	三、五七三、六六四
(無稅品)			
煙草	四七、二〇八	五七、七九三	四三、四八五
貝殼	一三四、八〇三	七二、二九九	七六、五七八
大麻黃麻及マニラヘム	四、九九九、三六四	五、〇九〇、九三三	三、七六九、六一一
其他植物纖維	三〇、四九〇	六七、一三七	五〇、六六八
コブラ	三三〇、四六六	三三三、〇五五	九五、六〇三
其他	三〇、六三七	四九、二九〇	三八、四九九
合計	七、三〇七、五三〇	七、三六六、一九七	七、六四四、二七八

輸 出		輸 入	
品 名	大正四年	大正三年	大正二年
皮毛革牙製品	一六、二四四	六九六	一、七七一
香水及香油	一三、八九四	一一、〇六四	二七、五〇三
沃度加里	一一、七二七	四三〇	四、二〇七
藥材及製藥	一一、七四五	五、七〇三	三、七四四
燐寸	一八、三六八	—	三、三三四
羽二重(平織)	二五、四八八	一七、八九五	三九、九七六
同(紋綾織)	二、三八五	一一、四〇六	九、九一七
甲斐絹	一一、九五九	五、〇三九	三、〇七一
縮緬	二四、七四八	五、七八九	一、六三七
縮木綿	一一、五二四	七、八九五	八、二五四
天竺巾	三五、五〇七	二四、四九六	二九、二〇三
合計	七、三〇七、五三〇	七、三六六、一九七	七、六四四、二七八

帝國南進策

品名	大正四年	大正三年	大正二年
モ ス リ ン	一一、七一九	八、七四八	四六、四三五
綿製ブランケット	一四、七二六	四、八九六	三、一五五
布 帛 類	三〇、二一八	三、四二〇	七九八
綿製浴巾	一四、六九三	一七、九七五	六三、一一一
足袋(靴用)	一一、一〇五	一、五九九	二、四六一
紙類	三三、五七七	五、一〇二	四、八二八
石炭	三六、三二八	四七、九三六	—
陶磁器	一四、八四七	一一、九一〇	一五、五六八
鐵製品	一九、一三六	一、三三九	三、二九七
洋傘	一六、八七七	一八、四七九	一九、九八四
洋燈及同部分品	一六、九三四	五、九〇〇	九、四四〇
小包郵便物	一七、二五四	七、五四四	一、八五四
其他	三四五、六三九	三三五、八四四	六九三、〇四三
合計	七七、四二二	五六一、一七六	一、〇三四、九七三

輸入

品名	大正四年	大正三年	大正二年
米及穀	三、五三三、〇三三	三、八六三、四六八	五、二〇六、〇三七
山馬皮	二四、七九	一三、六〇八	三、八三三
花梨木鐵刀木紫檀等	二二、四〇四	九、八五九	一五、二六〇
チルク	八八、一七六	一八四、八九三	四六五、四七八
(無税品)			
實 綿	七四、七〇七	五二、八六七	三〇、五六四
繰 綿	九、〇八五	一九、八三八	四、七一一
其他	二五、二九二	二九、八三八	四九、二〇一
合計	二、七九八、〇〇四	四、一七三、三七〇	五、七九三、二二四

大正四五兩年度 日本對印度南洋貿易比較表

本表は大藏省の元簿に依り、大正四五兩年度上半期に於ける日本對印度南洋の輸出入額を比較したるものにして、少數の品目を除外すれ

本論

ば、今年に於ける増加の著大なること一目の下に之を認むるを得べし。尙品目の撰擇に就ては、主として金額十萬圓以上のものに限りたるを以て、佛領印度支那は輸出に於て此の金額に達するもの僅に二品、米領比律賓は輸入に於て僅に二品、又暹羅は輸出に於て一品を有せず、輸入に於て僅に一品を有するに過ぎず。

英領印度

輸 出

品名	大正五年	大正四年	大正五年	大正四年
精糖	二七八、三〇六	一、〇四四、五七四	樟腦	七六八、一四四
麥酒	五五、三三八	一三八、二九六	晒粉	三〇六、三九一
石鹼	二六、三六一	六〇、五七七	藥品	五五一、八三〇
硫磺	二四、四八〇	六九、二七五	寸品	二、九六六、七六三

品名	大正五年	大正四年	大正五年	大正四年
鉛筆	二六、八三八	一三、九四〇	打組眞田組類	一三八、四二五
染料顔料及塗料	一七、二八五	一七、八二七	肌衣(メリヤス製)	二、三三三、四六二
紡績絹織糸	六三七、二二三	九三三、〇二二	同(綿縮製)	一七五、〇三九
綿織糸	一、四七、二六六	二四六、三三九	足袋(靴用)	三四〇、九〇〇
毛糸	二五〇、七〇三	一〇、八二六	鈕釦	六三〇、九八八
羽二重	一、八九一、〇〇三	二、二六、九九七	腕輪	六七三、三六
絹子	二二六、九七五	四八、八三七	紙	一五九、八四四
琥珀織	二八五、〇一〇	二七、六六七	炭	七四、九三七
琥珀織	一四〇、四六六	一七〇、一六五	セメント	二七六、七五五
綿織	一八七、〇四〇	六、三三七	陶磁器	五九〇、三三二
綾木綿	一、一〇六、八四三	一〇一、二六一	硝子罎	五七三、八二二
綿縮	二四、一五九	五三、〇七七	硝子罎	三三八、八二六
綿フランネル	一三九、〇四三	九、四七六	硝子製食器	七二、三三四
生巾及生巾	一、七七一、八三二	九、〇〇九	硝子珠玉及球	三九五、〇八九
晒巾及晒巾	一八〇、九〇四	一、〇、二四	銅	一九、六九三
晒巾及晒巾	三八一、四五六	一、四、四〇三	眞鍮及黃銅	二〇九、九五六

帝國南進策

鐵製品	六〇六、一七三	洋傘	八三、九六七
ゴムタイヤ	二六四、八三三	ランフ及同部分品	四五四、九六三
紡績機及織布機	五五〇、二七一	器具	四九八、八五七
茶箱用板	八三、五二二	磷酸肥料	一七六、五〇〇
其他木材及板	四三〇、五二五	其他	四、七八五、九七〇
傘柄及傘手	一六二、〇六六	合計	二九、八八三、二七四
			大正五年
			八三、九六七
			四五四、九六三
			四九八、八五七
			一七六、五〇〇
			四、七八五、九七〇
			二九、八八三、二七四
			大正四年
			三四、五〇八
			三八八、一九四
			一一七、九三三
			六五、六七六
			二、四二六、九三一
			一八、〇二二、三四三

輸入

米及類	三五、九二四	イソデア・ラバー	七四八、三八六
革類	三九三、七四六	及ガタパーチ	七五三、〇八四
パラフキン	五七五、七五三	シエラック	九八、八〇一、二二三
ワットグス	三三三、六四四	實棉及綵棉	三七、四六三
天然乾藍	一六四、七五九	大麻黃麻	二二四、八七一
黃麻織糸	一〇、〇四〇、五五〇	骨粉	二八六、九九三
鐵	一三〇、一六四	油槽	八七〇、四四六
没食子五倍子等		其他	一〇四、三七五、九八三
ダンニン材料		合計	一四、三七五、九八三
			大正五年
			七四八、三八六
			七五三、〇八四
			九八、八〇一、二二三
			三七、四六三
			二二四、八七一
			二八六、九九三
			八七〇、四四六
			一四、三七五、九八三
			大正四年
			五七、八七九
			一三七、八二七
			八一、〇七三、六五四
			五八五、五一四
			三六六、四四〇
			四三三、五〇六
			三四五、三八六
			八五、一五七、四八五

海峽植民地

輸出

小麥粉	三六、一七六	セメント	一八三、七二四
錫柱	一一〇、二二五	陶磁器	四〇五、五八八
貝酒	一〇四、七二八	硝子罐	一三三、一五九
麥酒	九四、四三六	鐵製品	三三七、〇八〇
諸藥品	二六八、一四五	人力車	九六、八五〇
燐寸	五二、三八二	ゴムタイヤ	四九八、八〇三
羽二重	一五〇、七八〇	車輛及同部分品	一六一、三〇三
綿フランネル	一一〇、九五四	茶箱用板	二三八、一八六
綿製浴巾	一〇三、八九三	其他木材及板	三四一、八三三
肌衣(メリヤス製)	一一八、〇九〇	其他	二、五三三、八二二
石炭	二、〇〇五、七七五	合計	八、七四六、七九六
			大正五年
			一八三、七二四
			四〇五、五八八
			一三三、一五九
			三三七、〇八〇
			九六、八五〇
			四九八、八〇三
			一六一、三〇三
			二三八、一八六
			三四一、八三三
			二、五三三、八二二
			八、七四六、七九六
			大正四年
			四八、二七八
			一九三、七三七
			六二、五九五
			一九、四三四
			八三、四九五
			七〇、六一〇
			三七、九四八
			一、三六六、二四七
			七五、四三四
			一、三三九、五六六
			五、七三九、三三二

輸入

大正五年	大正四年	大正五年	大正四年
阿仙藥其他 タニニ越幾斯 一三六、八〇三	イソアア・ラバ 及カタバチヤ 七三、三〇〇	二、四六、六〇三	五二、〇七六
錫 四五九、三四一	實棉及繰棉 八三三、四九九	二五三、五四二	一一、〇八一
亞鉛 四五、四〇三	其他 六、二二一	五六一、四四三	五四二、〇五五
貝殼 三三四、一六五	合計 二六九、九七四	四、五四、一九八	二、三七一、七六六

蘭領東印度

輸出

大正五年	大正四年	大正五年	大正四年
小麥 一五、六六四	羽二重 一一、二〇六	一一〇、八五〇	九三、九六〇
寒天 二六八、三九一	綿木綿 三三三、三六六	三三四、七四四	三、〇九〇
諸藥品 二六〇、八八一	綿フランネル 一八、六二七	九四、三三〇	八九、七五二
燐寸 四五、三三八	綿製浴巾 三四、〇七三	一四八、〇五三	八、〇三三

輸入

大正五年	大正四年	大正五年	大正四年
肌衣(メリヤス製) 六七五、九六四	洋傘 二八〇、四五四	一九七、七九七	五七、八八九
帽子 一三〇、六四二	洋燈及同部分品 三四、五八七	一〇〇、三五二	四三、二七五
石炭 四二〇、九四八	燐酸肥料 八七、八四四	一四一、八〇三	三八、〇九六
陶磁器 二四二、九六九	其他 二〇六、五三三	一四、八〇三	八〇、七七一
硝子罐 二六、一三九	合計 二〇、二六一	三、二七四、九三二	一、三三〇、〇三八
鐵製品 一〇九、三三九	合計 三六、一九三	八、四九九、二六三	四、〇七九、五三六
鐵製品 二二〇、四四五	合計 一七、八〇七		

大正五年	大正四年	大正五年	大正四年
砂糖 一、七六、七二八	貝殼 六、二七、二六七	三三、五九九	一七五、七九五
揮發油 二二、四三四	イソアア・ラバ 及カタバチヤ 二四、七五二	一六、九六四	一六四、二二一
石油 七九、一六〇	實棉及繰棉 一〇、一、四〇五	一五四、八八五	三六、六六〇
アラフキ 三三七、五五三	其他 三四、五〇五	八四六、〇一一	八一、五二七
阿仙藥其他 一〇七、三四四	合計 二八、八七三	四、四〇、〇九三	八、四四七、二二三
阿仙藥其他 一七五、四八六	合計 七三、三一九		

佛領印度支那

輸 入		輸 出	
羅紗及セルサス	大正五年 三三、一三〇	大正五年 五八、六六	大正五年 一九七、二七
石 炭	大正四年 一四、五八	大正四年 一、二四、一三四	大正四年 三三、七五
米 及 穀	大正五年 二〇、九七	大正五年 一〇六、〇六	大正五年 一、三九、五七
實 棉 及 綠 棉	大正四年 一、三六、七三	大正四年 一、二九、六三	大正四年 一、七六、〇三
石 炭	大正五年 六〇、〇八	大正五年 三、二四、六六	
合 計	大正五年 一四九、九四	大正五年 一、三九、五七	大正五年 一、三九、五七
合 計	大正四年 一六、〇七	大正四年 一、二九、六三	大正四年 一、七六、〇三

米領比律賓

輸 入		輸 出	
薯 蓣	大正五年 一四九、九四	大正五年 二九二、五五	大正五年 一九〇、四〇
燐 寸	大正四年 一四、七九	大正四年 一四三、三二	大正四年 三九、七六
綿 織 糸	大正五年 一七九、三六	大正五年 一六五、四八	大正五年 三五、二四
肌衣(ソックス製)	大正四年 三八九、四七	大正四年 一、四〇六、九三	大正四年 一、三二一、六四
同 (綿縮製)	大正五年 一四九、四〇	大正五年 四、五五、五四	大正五年 三、六六、四五
石 炭	大正四年 一、五七、四六	大正四年 七九〇、八八	
合 計	大正五年 一、七九、三六	大正五年 一、三九、五七	大正五年 一、三九、五七
合 計	大正四年 一、三六、七三	大正四年 一、二九、六三	大正四年 一、七六、〇三

暹 羅

輸 入		輸 出	
砂 糖	大正五年 二、七〇、八七	大正五年 一六七、五九	大正五年 一八九、〇八
大 麻 黃 麻	大正四年 一、八六、七〇	大正四年 三、〇六、二〇	大正四年 三、七八、五五
及 マニラ ハム プ			
合 計	大正五年 二、七〇、八七	大正五年 一、六七、五九	大正五年 一、八九、〇八
合 計	大正四年 一、八六、七〇	大正四年 三、〇六、二〇	大正四年 三、七八、五五

論 大正五年 七二、八三
大正四年 三二、二八

輸入

米及	大正五年	大正四年	大正五年	大正四年
其	七三、九九	一、三〇、七四	九四、八六	一、三四、〇九
他	一八五、八七	一〇九、三四	合	計

日本總貿易額對印度南洋貿易額比例表

對世界各國	總輸出額		對總額百分率	對世界各國	總輸入額		對總額百分率
	輸出額	輸入額			輸入額	輸出額	
大正二年	六三、四六〇、二三	七三、四三、六四	八・四六	一、三六、八九、八五	三〇七、四六、六八	三・五七	三・五七
大正三年	五九、一〇、四一	五九、七五、七五	八・二五	一、九六、八七、一八	二二六、八四、八八	三・〇七	三・〇七
大正四年	七〇、三六、九七	五三、四九、九六	一〇・二三	一、二四〇、七六、九五	二五五、五三、六二	二・五九	二・五九
大正五年	四九、五五、七三	三八〇、四〇、九三	一一・五九	八五〇、〇六、七三	一七五、四九、一四	二・〇六	二・〇六

我國海運力の現在及將來

是に於て吾人は世界の海運力を檢し、之に對して我國の海運力が、現在及び將來に亘り果して如何なる地位勢力を有するかを見ざる可らず。先づ開戰當時に於ける列國の海運力は凡そ左の如し。

開戰前世界各國船舶表 (一百噸以上)

國名	隻數	噸數	國名	隻數	噸數
英吉利	10,113	110,313,700	日本	1,013	1,708,366
獨逸	11,030	5,114,710	和蘭	709	1,421,710
合衆國	1,777	4,310,078	伊太利	677	1,430,473
佛蘭西	1,656	1,957,353	奧國	433	1,053,346
本論	1,105	1,913,266	瑞典	1,088	1,015,344

西班	牙	八三、九六	白耳	一七三	三、四一、〇三五
露亞	七四七	八五、九四	土耳	一四五	一、五、三四三
希臘	四〇七	八〇、六一	葡牙	一〇四	九三、四三五
丁抹	五七六	七〇、四三〇			

然るに開戦以後、交戦國及び中立國の船舶は撃沈、或は爆沈、或は拿捕、抑留等により多大の減少を示せり。其の統計を見るに概ね左の如し。但し抑留の分は講和後、何程か本國に返還せらるべしと雖も、今は全く海運の用を爲さざるを以て、假に損害と見做す。又交戦國、殊に聯合軍側は軍事上の秘密を要する關係上、其の公開せられざるもの頗る多く、一般に不明瞭を免れざるが故に、其の實際の損害は惟ふに更に多大なるものあるべしと雖も、姑く現在公知の統計に従ふ。

開戦後世界各国船舶損害表

英吉	佛蘭	露西	白耳	伊太	日木	葡牙	獨逸	奧地利	土耳	諾威	瑞典	和蘭	合計
一七三	四七、五五	二七	一〇	二二	六	三	七六	二	九	五	六	三	一、六九、八三七
二、四〇、四五〇	二、四〇、四五〇	二〇、三三	二九、八六一	七〇、三三	二八、三〇六	六八	九六、八、五〇四	五八、三六六	九、七二八	九五、七三三	四三、三七	七三、七八六	三、三六、九五四
三六三	一三、一八五	四二	二二	一〇	六	三	六六	八〇	九	五	六	三	三、三六、九五四
一、三三、三三三	一、三三、三三三	四二	一〇	二二	六	三	六六	八〇	九	五	六	三	三、三六、九五四
一、三三、三三三	一、三三、三三三	四二	一〇	二二	六	三	六六	八〇	九	五	六	三	三、三六、九五四
一、三三、三三三	一、三三、三三三	四二	一〇	二二	六	三	六六	八〇	九	五	六	三	三、三六、九五四

丁抹	三、七四〇	二八	三、七四〇
西班牙	一三、〇七〇	六	一三、〇七〇
希臘	三、三三三	二	三、三三三
合衆國	一六、〇三三	六	一六、〇三三

【備考】右は本年四月末迄の損害表にして、此外公知に係る損害に英吉利四十五隻、佛蘭西九隻、露西亞五隻、伊太利五隻、獨逸十隻、土耳其五隻、諾威十四隻、瑞典九隻、和蘭六隻、丁抹三隻、希臘一隻、米國二隻等あれども、其の噸數は一切不明にして本表中に收むるを得ず。又一般海難の統計は調査困難の爲め同じく此に收むるを得ざるを遺憾とす。尙損害内譯は英吉利、獨逸、奧地利、洪牙利國を除き、他は總て明瞭ならざるを以て假に擊沈及爆沈の中に收む。但し我國の分は最近に至る迄の損害を収録せり。然るに開戦以後、各國とも新造船舶の増加あり。勿論軍艦、兵器、彈藥

其他軍需品の方面に多大の製造能力を奪はるゝが故に、之を開戦前の増加率に比する時は、著しく遞減を見ると雖も、尙左の如きものあり。

開戦後の新造及建造中船舶表

英 國	六、七三三	六七	六、七三三
合 衆 國	二〇〇,〇〇〇	一〇〇	二〇〇,〇〇〇
佛 蘭 西	六、一〇〇	—	六、一〇〇
日 本	一、五、五〇〇	—	一、五、五〇〇
伊 太 利	四、九、四〇八	—	四、九、四〇八
和 蘭	一、一、五〇〇	—	一、一、五〇〇
瑞 典	一、一、〇〇〇	—	一、一、〇〇〇
露 西 亞	一、〇、〇〇〇	—	一、〇、〇〇〇
西 牙 牙	一、〇、〇〇〇	—	一、〇、〇〇〇

（建造中並に新規購入船舶の状況及び其の隻數等は多く不明なり）

更に以上の諸統計を計較歸納して、現時に於ける世界の海運力を概示すれば左の如し。但し前記開戦以前の統計は百噸以上を取り、開戦後増加の分は千噸以上に限れるに依り、前表との間多少の齟齬あるを免れざれども、大體の觀測には敢て支障なかるべきを信ず。

世界各國船舶現在表

國名	隻數	噸數	建造中の分加算噸數
英國	九、九九三	一九、五七、九七三	一、〇一、三三七
合衆國	一、八七五	四、五五、〇六五	五、四一五、四三六
日本	一、二三五	一、七八、九六六	三、三四、七〇〇
諸國	一、六六六	一、九三、三六六	三、二二、三六一
佛蘭西	九八〇	一、八二、五三三	一、八五、五〇三
和蘭	八〇七	一、五〇、九六九	一、八〇、九六九
獨逸	一、四四四	一、七七、六六六	一、八七、三三六
伊太利	六六六	一、三三、三三六	一、三三、三三六
瑞典	一、〇七七	九、五、三三六	一、〇一、三三七
西班牙	五八八	八、三、六〇四	八、三、六〇四
希臘	三六六	七、八、四七六	七、八、四七六
露西亞	七三三	八〇、九、八八四	八〇、九、八八四
埃洪國	三三三	七、四、六六六	七、四、六六六
丁抹	五五六	七、七、六六六	七、七、六六六
白耳義	一、三三三	三、一、六六六	三、一、六六六

以上各統計表は戰亂中、變化急激の時代なるが故に、勿論精確を期し難く、又四月以後に於ける損害も少からざるべしと雖も、而も一般の形勢は之に依つて卜知するを得べし。

之を要するに我國現在の海運力は尙貧弱にして、國家發展の爲め十分の用を爲すに足らずと雖も、而も最近一二年以内に建造を了すべき分を合算すれば優に二百三十萬噸以上に達すべく、之を開戦後衰弱せる獨逸の總噸數に比すれば、却つて我の優勝を示し、殊に獨逸現存船舶が殆ど悉く自國領海内に潜伏して外洋航海の用を爲さざるを思へば、戰爭の影響が如何に多大なるかに驚嘆せざるを得ざるべし。

又英國は流石に尙偉大なる海運力を擁すと雖も、其の軍事用に割取せられたる者固より甚だ多く、更に母國植民地間の連絡に大部分を要するが故に、純粹に世界通商貿易の爲めに使用せらるるもの著しく減

少せり。佛、伊、露等亦固より同様なる事情の下に在り。其他中立諸國の船舶と雖も、主として軍事用に充てられ、米國獨り多大なる海運上の勢力を有するが如しと雖も、之すら尙歐洲交戦國に對する交通運搬の用に充てらるゝもの多く、世界通商殊に東洋方面の海運には其の勢力大に減退せり。近時新に太平洋航路を復舊するの計畫あり、又爪哇支那日本汽船會社の米國航路延長あり、其他東洋方面に於ける外國船舶の種々なる活動計畫ありと雖も、此の方面に於ては日本の海運力が尙覇權を掌握するものと信ずべき幾多の理由あり。

されば今日、世界海運力の缺乏を補足し、能く通商貿易の必要を充すに於て、不十分乍らも我が日本の船舶が多量の貢獻を爲せること明瞭たり。尤も日本船舶中にも、外國の軍事用に雇傭せらるゝものなきに非ずと雖も、一般通商貿易上に於ける其の目覺ましき活動は眞に快心

の極と謂ふべきものあり。現に昨年中に於て我が外洋航路に従事せる船舶約八九十萬噸、其の收入運賃約七千萬圓なりしが、本年に於ては更に二三十萬噸を加ふるのみならず、其の傭船料及び運賃は昨年比し一層の昂騰を告げ、従つて今年中に於ける海外よりの收入豫測額は少くとも昨年の二倍以上、即ち一億五千萬圓と算定せられ居れり。斯くて本年末に於ける輸出超過豫想額約三億萬圓、軍需品賣拂代金約一億五千萬圓等と共に、此の船腹收入が帝國財政經濟の基礎を鞏固にすること固より辯を俟たざるなり。

形勢既に斯の如し。我が海運業の前途が洋々たる希望を有するのと何人も之を疑ふの餘地なかるべし。殊に我が造船能力は材料不足の困難あるに關らず、近時急激の増大を示し、又我が船員の技能、經驗、膽力等も亦漸次世界一般の認識する所となり、従つて更に其の自信を深

く、決心を固くし、成績は愈々益々優良の實を示いつゝあり。

是に於て吾人は敢て此の好機に乘じ、博く世界の各方面に亘りて新航路を開始するの急務を感ずる者なりと雖も、殊に印度南洋方面中の南支佛領印度支那暹羅航路、蘭領東印度諸島沿岸航路、英領印度沿岸航路の如き、必ず進んで先づ之に著手せんことを希望せざるを得ず。而して更に吾人の望む所は、一般商工業者の態度及び通商條約等に於ける不備の諸點に大改善を加へ、官民一致して以て此の大計畫遂行の任に當らん事に在り。若し果して能く斯くの如くなるを得ば、我國通商貿易の大發展は眞に期して待つべきを確信す。

印度南洋に於ける内外定期航路表

世界海運力消長の大勢は既に前章に於て之を述べたり。吾人は茲に印度南洋に於ける内外定期航路表を掲げ、卷頭の航路圖と相俟つて、現在該方面に於ける我が海運力の地位を明にし、併せて將來に於ける其の發展の希望を暗示せんと欲す。

日本郵船株式會社

◎ 歐洲線 (二週一回、臨時線每月一回)

横濱 神戸 門司(又は長崎) 上海 香港 新嘉坡 馬拉加 彼南 古倫母
(蘇士 坡西土 馬耳塞 倫敦 安土府) ダーバン ケープタウン マデイラ
倫敦 ミッドルスボロー

◎ 紐育線 (四週一回)

本論

帝國南進策

香港 比律賓 上海 門司(又は長崎) 神戸 四日市 横濱 桑港 巴奈馬
コロソ 紐育

◎ 濠洲線 (毎月一回、別に臨時船を使用す)

横濱 神戸 長崎 香港 馬尼刺 ザンボアング 木曜島 タウンズヴィル
プリズベーン シドニー メルボルン

◎ 孟買線 (二週一回、別に臨時船を使用す)

神戸 門司(上海) 香港 新嘉坡 馬拉加 古倫母(チュエチコリン) 孟買
◎ 甲谷陀線 (二週一回、別に臨時船を使用す)
横濱 神戸 門司(上海) 香港 新嘉坡 彼南 蘭貢 甲谷陀

大阪商船株式會社

◎ 孟買線 (毎月二回、別に臨時船を使用す)

四日市 大阪 神戸 門司 香港 新嘉坡 ホート・スホッテンハム 彼南
古倫母 孟買

◎ タコマ線 (二週一回、別に臨時船を使用す)

香港 馬尼刺 基隆 上海 長崎 門司 神戸 四日市 (清水) 横濱
ヴィクトリア シヤトル タコマ ヴァンクーパー

◎ 南洋線 (毎月一回)

甲線

基隆 厦門 汕頭 香港 馬尼刺 サンダカン マカッサイ スラバヤ
サマラン バタビヤ 新嘉坡 サンダカン 香港 打狗 基隆

乙線

基隆 厦門 汕頭 香港 馬尼刺 サンダカン 新嘉坡 バタビヤ
サマラン スラバヤ マカッサイ サンダカン 香港 打狗 基隆

(甲乙兩線を交互に航海す)

東洋汽船株式會社

◎ 桑港線 (毎月二回以上)

香港 馬尼刺 上海 長崎 門司 神戸 横濱 ホノルル 桑港
本論

南洋郵船株式會社

◎ 神戸、南洋線 (四週一回)
神戸 門司 香港 バタビヤ サマラン スラバヤ マカッサル パリパー
バン 香港 門司 神戸 横濱

南洋貿易株式會社

◎ トラツク幹線 (每三十五日一回)
横濱(又は横須賀) (門司) 二見 サイパン トラツク
◎ アンガウル支線 (毎月一回)
トラツク ヤップ パラオ アンガウル
◎ ヤルイト支線 (毎月一回)
トラツク ボナバ クサイ ギルバート ヤルイト
(外にアンガウル・ムナド間、トラツク・ラパール間の不定期線あり)

英印汽船會社

甲谷陀 蘭貢

◎ 甲谷陀、蘭貢線 (每週二回)

甲谷陀 蘭貢 彼南 新嘉坡

◎ 甲谷陀、海峽線 (每週一回)

甲谷陀 チタゴン

◎ 甲谷陀、緬甸線 (每週一回)

甲谷陀 蘭貢 ムールメーン

◎ 甲谷陀、ムールメーン線 (二週一回)

甲谷陀 彼南 新嘉坡

◎ 甲谷陀、日本線 (每週一回)

蘭貢 ゴボールボール
ザガバタム ココナダ
◎ 蘭貢、コロマンデル線 (每週一回)
バルゲア カリンガバタム ビムリバタム ヴイ

蘭貢 マドラス
◎ 蘭貢、ネガバタム線 (每週一回)
ネガバタム カッダローア ボンダイセリー マドラス

本論

帝國南進策

蘭貢 タヴオイ・リバー マアグイ ◎ 蘭貢、マアグイ線 (毎週一回)

蘭貢 タヴオイ・リバー パロー マアグイ カマウ ボックバイン カラ

スーリ ヴィクトリア・ポイント マリワン

ムールメーン エー ◎ ムールメーン、彼南線 (二週一回)

タヴオイ・リバー ヴォクトリア・ポイント 彼南

マドラス ボンデイセリー ◎ マドラス、新嘉坡線(甲線) (二週一回)

ボート・スキッテンハム カッタローア カリカル ネガバタム 彼南

◎ マドラス、新嘉坡線(乙線) (毎週一回)

マドラス ボンデイセリー カッタローア カリカル ネガバタム 彼南

ボート・スキッテンハム 新嘉坡 ◎ 彼南、新嘉坡線 (毎週一回)

◎ 蘭貢、日本線 (二週一回)

彼南 ボート・スキッテンハム 新嘉坡

蘭貢 彼南 新嘉坡 香港 門司 神戸 横濱

◎ 蘭貢、孟買線 (二週一回)

蘭貢 古倫母 チウチコリン コチン 孟買

◎ ムールメーン、孟買線 (三週一回)

ムールメーン 古倫母 コチン 孟買

◎ アキアブ、コチン線

アキアブ 古倫母 コチン

◎ 甲谷陀、孟買沿岸線 (三週一回)

甲谷陀 フォールス・ポイント ゴポールポール カリンガバタム ビムリ

パタム ヴイザガバタム ココナダ マスリパタム マドラス ボンデイ

セリー カッタローア ネガバタム ゲール 古倫母 チウチコリン コラ

シエル アレツペー コチン カリカット テルリセリー キアンナノア

マンガローア 孟買

◎ 甲谷陀、モーリシャス線 (四週一回)

甲谷陀 フォールス・ポイント ココナダ 古倫母 モーリシャス

◎ 孟買、カラチ線 (毎週一回)

本論

帝國南進策

孟買 ホレバンダー ドワルカ カチマンドヴィー カラチ

◎ 孟買、波斯灣線 (毎週一回)

孟買 カチマンドヴィー カラチ マスカット ビュシャイヤー マホメラ
ブスレー

◎ 孟買、東南亞弗利加線 (二週一回)

孟買 ホレバンダー セイチエレス ラムー モムパッサ ザンザバル
ダレサラム モザンビック ベイラ デラゴア・ベイ ダーバン

◎ 倫敦、甲谷陀線 (二週一回)

倫敦 馬耳塞 坡西土 蘇士 亞丁 古倫母 マドラス 甲谷陀
(復航にはセノア、プリマウスに寄港す)

メサジリー・マリテーム會社

◎ 馬耳塞、橫濱線 (二週一回)

馬耳塞 坡西土 蘇士 ザプチー 古倫母 新嘉坡 西貢 香港 上海
神戸 橫濱

◎ 西貢、海防線

西貢 海防

◎ 古倫母、馬耳塞線

古倫母 坡西土 馬耳塞

◎ 新嘉坡、バタビヤ線

新嘉坡 バタビヤ

ペンシユラー・エンド・オリエンタル汽船會社

◎ 倫敦、孟買線 (毎週一回)

倫敦 シアララター 馬耳塞 坡西土 亞丁 古倫 孟買

◎ 倫敦、甲谷陀線 (二週一回)

倫敦 マルタ 坡西土 古倫母 甲谷陀

◎ 孟買、日本線 (二週一回)

孟買 古倫母 彼南 新嘉坡 香港 上海 門司 神戸 橫濱

◎ 印度、濠洲線 (二週一回)

孟買 古倫母 フレマントル アデリート メルホルン シドニー

本論

帝國南進策

◎馬耳塞、日本線

馬耳塞 坡西土 亞丁 古倫母 彼南 新嘉坡 香港 上海 神戸 横濱

伊太利汽船會社

◎ゼノア、孟買 (四週一回)

ゼノア ネーブルス カタニア 坡西土 蘇士 亞丁 孟買

西班牙汽船會社

◎バーセロナ、馬尼刺線 (四週一回)

バーセロナ 古倫母 新嘉坡 馬尼刺

コニククリーク・バケットファルト會社

◎バタビア、彼南線 (二週一回)

バタビア トロプトン クルー エンガノ ベンターレン バタン

オレレー サバン オレレー シガリ ローシヌマウエ 彼南

◎バタビア、コタアゲン線 (二週一回)

バタビア オーストハーフェン トロプトン オーストハーフェン メラク
オーストハーフェン トロプトン カリアンダ トロプトン コタアゲン

◎爪哇、新嘉坡線 (二週一回)

スラバヤ サマラン チェリボン バタビア グルー ピンツアン ベン
ターレン バタン プル・テロ トロダラム ナコエイランダン ラヘヤ
グモン・シトリ シホルガ シンケル シナバン タバツアン ミュラホー
オレレー サバン パダン 新嘉坡 タンジョン・パンダン バタビア
チェリボン サマラン

◎バタン、彼南線

バタン シベルツ アエル・パンギス ナタル シホルガ バロス グモン
シトリ シンケル パーニヤ・エイル タバツアン ミュラホー チャラン
オレレー サバン アラワン・デリー 彼南

◎バタビア、パレムバン線 (每週一回)

バタビア ムントク パレムバン

本論

スラバヤ サマラン チェリボン バタビア パレムバン ムアラ・サバ
ザンビー

◎ 爪哇、チャンビー線 (二週一回)

パレムバン 新嘉坡 ムントク パレムバン

◎ パレムバン、新嘉坡線 (毎週一回)

サマラン バタビア プラワン・デリー

◎ 爪哇、プラワン・デリー線(甲線) (二週一回)

スラバヤ サマラン バタビア 新嘉坡 プラワン・デリー

◎ 爪哇、プラワン・デリー線(乙線) (毎週一回)

ブラワン・デリー アサハン パネー プロムバン タンジョン・メンゲイダル
タンジョン・レイドゥン ベンカリス 新嘉坡

◎ 彼南、ランサル線 (毎週一回)

彼南 プラワン・デリー パツ・バラ ランサル プラワン・デリー

◎ バタビア、新嘉坡線 (毎週一回)

バタビア タンジョン・パンダン タンジョン・ピナン 新嘉坡

◎ バタビア、バンチャルマシン線 (二週一回)

バタビア ポンデアナ タンジョン・パンダン バタビア チェリボン
サマラン スラバヤ バンジャルマシン

◎ 新嘉坡、サムバス線

新嘉坡 リウ タムブラン ポンデアナ シンカワン スラカウ パマンカウ
サムバス

◎ 新嘉坡、ナツナエイランタン線 (二週一回)

新嘉坡 リウ ルトン クラマツ マラス タルムバ ミダイ グンデン
プル・パンジャン スラサン ミダイ タルムバ マラス クラマツ ルトン
リウ 新嘉坡

◎ ポンデアナ、新嘉坡線

ポンデアナ 新嘉坡

◎ 爪哇、新嘉坡線

スラバヤ サマラン チェリボン バタビア 新嘉坡

◎ 新嘉坡、ドンガラ線 (毎週一回)

帝國南進策

新嘉坡 バウエアン スラバヤ クマイ サンピツ バンジャルマシン
スタグン コタ・バル パリ・ババン サマリンド ダンガラ ワニ タラカン
プロウ プロンガン サマリシダ バリ・ババン コタ・バル スタグン
バンジャルマシン サンピツ クマイ スラバヤ バウエアン 新嘉坡

スラバヤ バウエアン ◎スラバヤ、バンジャルマシン線 (毎週一回)
バンジャルマシン

◎バンジャルマシン、マカッサ線
バンジャルマシン スタグン コタ・バル パシル マカッサ

◎マカッサ、東ボルネオ線
マカッサ サマリンド プロウ サマリンバ マカッサ

◎スラバヤ、マカッサ線 (二週一回)
スラバヤ マカッサ

◎新嘉坡、セレベス線 (二週一回)
新嘉坡 スラバヤ マカッサ バリ・ババン ドンガラ

レ バタビア アムラン ムナド タグランドン シアウ タルナ
ク ロンドン アムラン ムナド タグランドン シアウ タルナ

リルン プタ タマコ タルナ シアウ タグランドン タリセ
ムナド トトック コタ・ブナ シコ ゴロンタロ トミニ ゴロンタロ
ジコ コタ・ブナ トトック ケマ ツルナーテ ムナド アムラン パレ
レ ドンガラ マカッサ プレレン スラバヤ 新嘉坡
◎マカッサ、トリトリ線 (二週一回)
マカッサ バレバレ ホリワリ マザイネ マムジュ ドンガラ トリ
トリ ドンガラ パル ワニ ドンガラ カロッサ シンバカ マムジュ
ホリワリ バレバレ マカッサ

◎マカッサ、ツルナーテ線 (四週一回)
マカッサ トリトリ レオク パレレ スマラタ クリンドン ポラ
アン・イタン ポラアン・モンゴンドー アムラン ムナド ツルナーテ

◎マカッサ、ゴロンタロ線 (四週一回)
マカッサ プートン ラハ カンダリ サラバンカ ブンクー コロノダレ
ル・ウーグ バンガイ プンタ ゴロンタロ

◎マカッサ、ホニ線 (二週一回)
マカッサ ホンサイン サレール シンジヤイ バジヨウエ パリマ

本論

コラカ パロボ マリリ

◎ 爪哇、デモール線 (二週一回)

バタビア スラバヤ アンペナン スンパウ・アツサール ビマ ワインガブー
エンデー サヴ ロデ クーバン アタプブ デモール・デイリー イル
ワキ キセル ダマイル セルワル デモール・デイリー アタプブ クー
パン ロデ サヴ エンデー アイメレ ワインガブー ビマ スンパウ
アツサール タリワン ラブアン・ハザ アンペナン スラバヤ バタビア

◎ マカッサ、デモール線

マカッサ ビマ ラブアン・パジヨ リオ マウメリ ラレンツィカ
ワイウエラン カラバイ デモール・デイリー アタプブ クーバン ロデ
サヴ エンデー アイメレ ワインガブー ワイケロ サベ ビマ マカッ
サー

◎ 爪哇、ロンボタ線 (毎週一回)

スラバヤ スムナツプ パンジュワング プレレン アンペナン ムンデギ
ジュンクッ・パツ ベノア ジュンクッ・パツ ムンデギ ラブアン アムツ
ブレレン パンジュワング スムナツプ スラバヤ

◎ 新嘉坡、アムボイナ線 (二週一回)

新嘉坡 リウ タンジヨ・パンダン バタビア チェリボン テガル ベカ
ロンガン サマラン スラバヤ プレレン アムペナン ラブアン・ハザ
スムバヨ・アツサール マカッサ プートン ラハ デフリー アムボイナ
パンダネーラ アムボイナ

◎ アムボイナ、西ニユーギニア線 (毎月一回)

アムボイナ サバルア アマヘイ タルデ・パーイ パンダ・ネイラ グサル
カイマナ ファク・ファク コカス プラバリー ヲハイ ヒルイ ヲハイ
ブラバリー

◎ アムボイナ、ムローケ線 (毎月一回)

アムボイナ サバルア パンダネイラ ツアル ララツ ソームラツキ
アダウツ ソームラツキ ララツ ツアル エラツ ドボ ムローケ

◎ アムボイナ、北ニユーギニア線

アムボイナ ナムリア サナナ ライウイ パチアン ツルナーテ ヲヤ
ブラ ガレラ カウ アク・スラカ プリ ウエダ バタニ ソロン サオ
ネツ マノクアリ ローン スルーイ ウォイ・パーイ ヲクテハン ボルゾ

帝國南進策

パライ
ワクテ
ボム
ホスニツク
マビヤ
◎ 爪哇、濠洲線 (毎月一回)
パタピア
サマラン
スラバヤ
ポート・モレスビー
プリズベーン
シドニー
メルボルン

ロッテルダム・ロイド汽船會社

◎ 和蘭、爪哇線
アムステルダム
ロッテルダム
馬耳塞
ゼノア
坡西土
古倫母
サバン
アラワシ・テリ
新嘉坡
パダン
バタピア

ネーザールランド汽船會社

◎ 和蘭、爪哇線
アムステルダム
リスボン
ゼノア
蘇士
古倫母
サバン
アラワシ・テリ
新嘉坡
バタピア

爪哇・支那・日本汽船會社

◎ 爪哇、日本線
スラバヤ
バタピア
香港
神戸

パース・フィリッップ會社

◎ 新嘉坡、濠洲線
新嘉坡
パタピア
サマラン
スラバヤ
ダーウィン
タウンズビル
プリズベーン
シドニー

イースタン・エンド・オーストラリアン汽船會社

◎ 香港、濠洲線
香港
馬尼刺
ザンボアンガ
ダーウィン
木曜島
タウンズビル
プリズベーン
シドニー
メルボルン

オーション汽船會社及西濠洲汽船會社

本論

帝國南進策

◎ 新嘉坡、濠洲線

新嘉坡 スラバヤ プルム フレマントル

海峡汽船會社

◎ 暹羅線

新嘉坡 盤谷

◎ 比律賓線

新嘉坡 ラブアン サンドカン(タオ) ザンボアング

印度支那航海會社

◎ 香港、マニラ線

香港 マニラ

◎ 香港、ボルネオ線

香港 サンドカン

支那航海會社

◎ 香港、イロイロ線

香港 馬尼刺 セブー イロイロ

◎ 香港、海防線

香港 海防

◎ 香港、暹羅線

香港 盤谷

印度・亞弗利加汽船會社

◎ 甲谷陀、喜望峰線

甲谷陀・古倫母 ベイラ デラゴア・ベイ ダーバン イースト・ロンドン
ポート・エリザベス ケープタウン

サラワック・新嘉坡汽船會社

◎ 新嘉坡、サラワック線

新嘉坡 サラワック

本論

アンカー汽船會社

孟買 坡西土 馬耳塞 リヴァプール

ヘンダーソン會社

蘭貢 坡西土 リヴァプール

エルラーマン會社

孟買 蘇士 坡西土 馬耳塞 リヴァプール

戰後列國の恢復力

今回の歐洲戰局の前途に就ては、人により各其の豫想を異にし、或は同盟軍が最終の捷利を博すべしと唱へ、或は全然之と正反對の見解を有する者あり。蓋し今日の如く文明事業の複雑にして、國際關係の錯綜せる時代に在ては、到底或る國家單位を有する一國を其の根柢より覆滅すること至難の業なるが故に、聯合軍が同盟軍を全滅せしむる能はざると共に、同盟軍も亦決して全捷を占むること能はざるべく、恐らく兩者の共疲れに依り、相交綏して其の終局に結ぶに至るべき乎。但し最近の形勢よりすれば、或は聯合軍が大捷を博して、遂に獨逸帝國の存立を危くするが如き結果を見ること無きを保せずと雖も、獨逸帝國

本論

の崩壊は決して獨逸民族の滅亡を意味するものに非ず、獨逸民族は將來必ず更に大活動を開始するの時あるべし。

故に今回の戦争が如何なる形式に於て講和を見るに係らず、其の講和は決して永久の平和を意味するものに非ず、他日再び干戈相見ゆべき一時的休戦状態に入りたるものと認むるを以て至當とすべし。されば歐洲の地圖は戦後に於て多少の異動を生ずることあるべしと雖も、それと同時に國際關係は更に一層の複雑を來し、各國互に一層の警戒を以て他國に備ふるの覺悟を定め、相競うて其の新たなる施設經營に怠らざるものと觀測せざるを得ず。

至るべし。

然れども歐洲列國は果して戦後に於て容易に其の經濟的創痍を恢復し得べき乎否乎。或は普佛戦後に於ける佛國の地位、及び日露戦後に於ける露國の事情等に照し、今回の交戦國が其の大打撃より恢復することの必ずしも至難事に非ざるを唱道するものあるべしと雖も、而も今回の大戦と往年の諸戦争とは大に其趣を異にし、當時に在りては戦争中に外資を輸入し若くは諸種の方法を以て生産力の確立に努め、従つて戦後に於て諸般の企業大に勃興したれども、今日は歐洲列強悉く鎬を削りて大戦亂の渦中に在り、管に産業の爲めに外資を輸入する能はざるのみならず、經濟及び財政の基礎は其の根柢より破壊若くは變革せられ、而も其の程度たる古今未曾有と稱せらるゝが故に、戦後の恢復は蓋し容易の業にあらざるべし。

本論

若し果して然りとせば我國が其間に於て大に驥足を伸ばし得るの希望歴々たりと謂ふべく従つて又之に對する經濟政策の確立眞に緊急重大の意義を有するを思はざる可らず。

戦後に於ける我國民の覺悟

斯くて歐洲戰亂の前途は如何にもあれ今後我國が一面非常の希望を生ずると同時に又一面非常の危機に際するは明瞭の事實なりとす。此に於て或種の論者は此點に杞憂を抱き戦後獨逸の大勃興を恐怖し、豫め之と提携するの素地を作らんことを策すと雖も吾人は斯の如き姑息の小策を以て能く此の大危機を蹴破し得べしと信ずる能はず。國家苟くも一たび互に敵國として相見ゆる以上區々たる眼前の利害のみを醒観たるべきに非ず國家本來の體面と及び其の永久の利害との爲め須らく斷乎として根本的に其の雌雄を決するの覺悟なかる可らず。又或種の論者は日英間の經濟同盟を主張し産業上に於て彼は

本論

精製品を主とし、我は粗製品を主とするが故に、兩國の利害は衝突するものに非ずと爲し、従つて英國の資本を利用し、相提携して印度南洋に於ける貿易の基礎を確立すべしと説くと雖も、吾人は亦容易に斯の如き樂觀説に同意すること能はず。何となれば、日本の工業商業が進歩發展すと云ふは、即ち次第に多く精製品を取扱ふことを意味するものにして、其間英國製品との競争は到底避け得べきに非ず。

試に英國の立場よりして其の紡績事業の關係を觀察せんか。支那、印度は多年英國が主要なる貿易市場として其の勢力を扶植したる地方なるが、今より二十年前、本國の紡績業者は綿糸貿易調査會を設け、世界市場の情勢を調査したる結果、殊に支那、印度方面に於て將來樂觀を許さざるものあるに驚き、從來の自由貿易主義にのみ依頼するの危険なるを感じ、頗る警戒を加へたることあり。爾後連年幸にして貿易の

好況を呈し、保護政策の主張も未だ其聲を大にするに至らざりしが、今後形勢の切迫するに従ひ、更に此の傾向を増進すべきこと疑ふ可らず。元來英國は支那、揚子江の流域を以て久しく其の勢力範圍と爲せるが故に、之を日本に侵さるゝは深く苦痛とする所なりと雖も、日本の支那に對する特殊の諸關係より見て、自然それだけは止むを得ずと斷念する場合もあるべし。然るに其の直接の領土たる印度に至つては斷じて同日の談に非ず。其の外國に侵害さるゝは到底忍ぶ能はざる所なりとす。殊に支那方面に於て日本の如き勁敵を有し、又北米、加奈陀方面に於て合衆國の蠶食を蒙るに及んでは、是非とも印度の本城を固守して唯一最大なる自己の貿易市場と爲さざるを得ず。現に先年來、英本國は印度内地に於ける紡績事業の發達に苦み、内地税を課して自國の紡績業者を保護し居れり。而も印度内地に於ては勞力の賃銀低廉

にして、殊に労働時間の制限なきが故に、内地税の賦課あるに係らず尙
 其の紡績業は本國の同業と競争するの力を有す。此に於て本國は更
 に人道の美名を假りて、労働時間を十三時間に制限するの工場法を作
 り、之に依つて印度の紡績業を壓迫し、依然として自國同業の確立を劃
 策せり。斯の如く英國は印度獨占の方策に腐心し、自己の領内に在て
 は植民地に對して自國の事業を保護するに努むると同時に、更に外國
 に對しては、本國と植民地と相合して共同の敵に當るの態度を取り、近
 年印度に産業調査會を起し、關稅を改正して輸出棉花に課稅せんとす
 るの形勢愈々切迫するに至れり。此の形勢は即ち日本の紡績業に對
 する防備警戒を動機と爲せること問はずして明瞭なり。殊に英國現
 内閣には、本國と植民地との間に關稅同盟を組織すべしと主張する有
 名なる保護論者チ、エ、ハ、バ、ハ、一派の在るありて、其の主張は最近に至

り殆ど全英國を風靡せんとするの勢あり。若し今後愈々該政策の實
 現を見る時ありとせば、日本は爲めに大打撃を受けざるを得ざるべし。
 故に紡績業のみに就て之を云ふも、日本は將來支那に於ても、印度に
 於ても、必ず英國の同業者と競争せざるを得ざるの地位に在り。一般
 貿易上の形勢亦之に依つて類推するを得べし。殊に彼が戰局終止の
 後、捲土重來を策するの時、日本は是非とも此の經濟上の大敵に當るの
 覺悟なかる可らず。英國は政治上に於て我の同盟たり。吾人は將來
 に於ても永く此の同盟の繼續すべきを信じ、又之を希望する者なりと
 雖も、而も經濟上に於ては、此の同盟國も亦一個の恐るべき競争者たる
 の事實を如何ともすること能はず。

又米國に就ては、歐洲戰爭の結果、莫大の富力を蓄積せるに依り、將來
 大に恐るべしと説く者あり。是れ固より一理あり。吾人は米國が國

家の體面を忘れ、獨逸の暴行に對しても徒に空文の抗議のみを繰返せるに見、又其の國內に複雑なる人種を包括せる、殊に黑人勢力の膨脹が重大なる影響を白人に及ぼせるものがあると、及び中央政府と各州との間に諸種の矛盾打拮を有するとの弱點に見て、其の國家發展の前途に多くの望を囑すること能はず、寧ろ其の將來或は幾多の難局を發生するなきかを疑ふ者なりと雖も、而も我が國民の覺悟としては、現に到底我と比較を絶するが如き大富力を擁し、且つ將來其點に於て幾許の發展を見るや殆ど測り知る可らざる此の自由國が、他日異常の大膨脹を爲し、殊に東洋に對して猛烈なる外交上經濟上の襲來を爲すべきものと豫想し、尙そこれに對抗して敢て屈せざるの決心なかる可らず。

されば我が國民としては、特に某々國に依頼して安心すべきにもあらず、又特に某々國を敵視して畏怖するの必要もなく、只東洋の盟主と

して天職遂行の初一念を貫く爲め、飽く迄孤立の覺悟を以て國家發展の大本を確立し、世界平和人類進歩の最高理想の下に、如何なる危機をも蹴破しつゝ大努力を繼續するの勇猛心あるを要す。

我通商貿易界の缺點

以上吾人は印度南洋に對する我が國民の發展に就き、大體の形勢と根本の方策とを略述したり。以下少しく通商貿易の實務に關する吾人の所見を語らんと欲す。

一 販路の聯絡を缺く事

吾人は先づ販路擴張の方策を攻究するの必要を感ず。之に就て吾人の最も遺憾とするは、我が通商貿易が海外市場に對する聯絡に於て極めて不完全なるの一事なりとす。

我が製造家の多くは、一部の例外を除き、自己の商品が如何なる地方

に於て如何なる有様に需要され居るかを知らず、貿易商は又商品の種類如何に關せず、只眼前の小利に驅られて手當り次第の輸出を爲し、彼も此も殆ど暗中摸索を以て盲滅法の商賣を爲せるの觀あり。更に他面より之を言へば、我が製造家は一般に輸出商に依頼し過ぐるの弊あり。爲めに折角需要ある商品も、輸出商の都合に依り、或は其の不注意と怠慢とに依り、常に販路の擴張を見る能はざるのみならず、甚しきは輸出を中絶して既得の販路を他に奪はるゝの遺憾あり。例へば或種の商品の如き、貿易商の手に於て賣行頗る不成蹟なりしが、其後製造家自ら彼地に赴き、實地調査を遂げたる結果、頓に其の需要を増加したる最近の事實あり。又外國の顧客が視察に来れる時、貿易商は或る大工場に案内して之を縦覽せしめ、自家の商品が其の工場の特製品たることを示し置きながら、實際取引の場合に於ては單に一部分の

み其の工場の製品を取り、他の大部分は一般市場より安價品を買集めて之を供給し、遂に其の奸策を看破せられて信用を失墜せるが如きこと實に尠からず。斯の如きは即ち貿易商と製造家とが一致提携を缺き、爲めに國民的の損失を招くの適證に非ずや。

されば製造家と貿易商とは常に親密なる關係を保ち、互に相提携し扶助するを要す。勿論輸出上の事務は、獨立の輸出機關を有する者の外、之を貿易商に委任するは當然のことなりと雖も、販路の調査、嗜好の研究、商品の鑑別等は、製造家も亦自ら之に當るの覺悟なかる可らず。若し商品の形狀、大小、意匠、考案、色合、商標、包裝、荷造等に至る迄、如何なる微細の點と雖も、製造家自ら十分其の實地を調査し、需要者の希望と嗜好とを知悉し、總てに於て海外の事情に精通せば、貿易商の知識、經驗、判斷と相俟つて、其の効果の莫大なるべきこと、固より多言を要せずして

明なるべし。

要するに我が輸出が組織的に大發展を爲さんが爲めには、十分海外各地に於ける販路との聯絡を保ち、彼此の間絶えず新鮮なる血液の循環を見ざる可らず。

二 價格の競争と濫造の弊

次に恐るべきは競争の結果より生ずる濫造の弊なりとす。凡そ商工業は常に二種の敵を有す。一は海外の敵にして、一は内地の敵なり。然れども海外の敵に當らんが爲めには、或る程度まで内地の敵と握手提携する覺悟なかる可らず。若し内地の同業者が常に有ゆる點に於て競争し衝突するあらば、國家の經濟政策上、由々しき大事と謂はざるを得ず。

尤も其の競争が單純に品質意匠等の上にある時は、其の結果は常に優良品の發現を迫出するものなるが故に、寧ろ大に之を獎勵すべしと雖も、若し其の競争が價格の競争に墮落するに及んでは、斷じて之を看過すべきに非ず。蓋し價格の競争は其の當然の結果として、無理なる生産費の節約と手数の省略とを誘致し、結局濫造の弊に陥らざるを得ず。商工業者は固より相當の利益を必要とす。然れども製造品の品質を低下せしむることを以て利得の方法たらしむるは、殆ど自殺的行爲に外ならず。斯の如きは個人としても、信用失墜の結果遠からずして全く其の販路を失ふの愚を免れざるのみならず、同業者全體として、延いては國家全體として、産業發展の前途を阻害する近視眼的行爲と謂はざるを得ず。

然るに我國の商工業者は由來近視眼的の人物甚だ多く、品質の優良

と鞏固なる信用とを以て、同業全體として永久の勝利を期するが如き遠大の志を有する者極めて稀なり。故に識者は此點に於ても亦國家的見地のよりして、大に當事者を戒飭指導する所なかる可らず。

三 商品の統一せざる事

又假に濫造の弊は之を救治するを得たりとすとも、若し商品製造上の統一なくんば、販路の擴張に多大の障礙を生ぜざるを得ず。例へば海外より一時に多額なる或る商品の注文を受け、之を數多の製造所より供給するとせんに、其の製品の形狀、大小、品質等に於て、種々の不揃不均一を生じ、到底一組の商品として之を交付し得ざるを常態と爲す。

固より大規模の製造所に在つては、各部工場間に整然たる統一を存する者少からずと雖も、個々獨立せる幾多小規模の同種工場間に在つ

ては、從來多くは製品の形狀、大小、品質等に關する聯絡交渉を缺き、遂に前記の如き不體裁を生じ、従つて亦後段に述ぶるが如き見本と實物との相違を來し、或は約束の期日を遅延せしむるの一原因となり、結局國家全體としての不信用を招くに至る。

故に將來に於ける組織的の工業としては、各製造所、各工場の間、常に密接なる交渉聯絡を保たしめ、常に其の製品に均齊なる統一を存せしめざる可らず。換言すれば、日本全國を以て一個の組織ある有機的製造所たるかの觀を呈せしめざる可らず。

又從來日本の商工界に完全なるカタログの編成を見ざるは、實に大なる缺點なり。勿論、小規模の製造所が一々カタログを作り得ざるは當然なりと雖も、若し前記の如く、諸工場間に聯絡あり統一あるに於ては、共同して一個のカタログを作り、其の編纂上の意匠、各國語の説明文、

其他總ての點に於て十分に之を完成すること亦決して不可能に非ず。是等も亦即ち全國を以て一個の有機的製造所と爲す所以なり。

四 同業者間の提携なき事

大商人が自己の地盤を獨占せんが爲め、小商人と競争して其の販路を壓迫し、甚しきはそれが爲め外國商人と結託するを辭せざるの場合すらあり。是は前節に述べたる所と略同一の意味に屬するものにして、若しそれ等大商人にして少しく國家的自覺あらば、寧ろ小商人を保護し誘掖して、各自取扱の品目、種類、價格等を協定し、相提携して外國の同業に對抗すること決して不可能に非ずと信ず。尙單に商人のみに限らず、製造家にせよ、資本家にせよ、兎角、大小相提携するを忘れて、只管自己本位に流るゝは嘆息すべし。凡そ一國の商工業に關係を有する

者、必ずや悉く國家本位の態度を以て協力一致の精神を發揮し、以て結局に於ける各自の利益を確保する大慾望大野心なかる可らず。

五 粗製品と濫造品との區別を知らざる事

世人は一概に粗製濫造と稱すれども、粗製品と濫造品とは其間に自ら明確の區別あり。即ち粗製品とは一般の日用品其他主として民度の低き地方に對する商品を意味す。總て貿易品は品質の優良を要すること勿論なりと雖も、而も需要地の嗜好と購買力とに應じて相當の手加減を加ふるの必要あり。故に民度低き地方に對しては、技術の精巧ならんよりは寧ろ價格の低廉を期せざる可らず。是に於て粗製品の必要あり。然れども粗製品には又それに相當する實用と實益と無かる可らず。若し粗製品にて可なりと謂ふが爲めに實用に適せず、保

存に堪へざるが如き濫造品を供給するに於ては、販路の杜絶、日を期して待つべし。是れ粗製品と濫造品との區別を知らざるの罪なり。

六 商品の等級に注意せざる事

粗製品の意味は前項に説明したる通りなるが、此の粗製品と精製品との間に、明瞭なる等級を設定し、それらの需要地及び需要者を調査甄別して輸出するの必要あり。然るに我國の商工業者は多く此邊の注意に缺くる所あり。其の結果、民度高き地方に粗製品を送り、民度低き地方に精製品を送り、共に先方の趣味と購買力とに適合せず、若し之を取換へて輸出せば双方とも歓迎を受くべき場合に、只其の海外の事情に通せざるが爲め、却つて双方とも失敗を招くが如きこと少からず。商工業者のみに限らず、政府の産業獎勵にも亦同様の失策あり。産業

の獎勵は固より必要なりと雖も、獎勵の命一たび下れば、各地の製造家悉く争うて之が製造に熱中し、其の結果往々生産の過剰を來し、或は價格競争の共倒れに陥るを免れず。是等も亦政府と當事者と共に大に注意するを要す。

七 商品検査法の設備不足なる事

前項に述べたる等級別に就ては是非とも嚴重なる商品検査法を設くるの必要あり。今日と雖も所謂重要輸出品に對しては検査の法なきに非ず。而も吾人の要求する所は、上は重要品より下は一切の小商品に至るまで、總て嚴重なる検査法を設けて等級品質の鑑別を行ふに在り。殊に其の検査の任に當る人物に就ては、兎角學理一方に偏するの嫌ある官吏のみに一任せず、ざりとて又經驗一方に偏するの恐ある

實際家の手のみに委託せず、宜しく兩者の長所を集めたる制度方法を採用し、特に海外の商況に通曉せる人物を撰擇し、一片の品質證明狀を以て能く海外市場に絶對的信用を博し得るが如き、確實の奏功を期せざる可らず。將來我國商工界の道德、智識、技能が進歩し、商工業立國の基礎確立したる曉は、斯の如き検査法を必要とせざるに至るを期すべしと雖も、現在の情勢を以てすれば、以上は實に喫緊の事務に屬するものなり。

八 見本と現物との相違及荷造不完全の事

商業道德の未だ十分に發達せざる我國に在つては、此種の近眼的行為を敢てする者の多きは、今更に非ず、實に吾人の痛嘆に堪へざる所なり。斯の如き近眼的行為が如何に國家貿易の發展を阻害するかは、多

言を要せずして明白なり。是等も亦嚴重なる監督取締の方法を講せざる可らず。

殊に荷造の不完全なるは我國一般の通弊にして從來之が改善を警告したる者少からずと雖も、未だ幾許の實行をも見ることも能はず。今後は宜しく距離の遠近、仕向地の氣候、商品の性質等に應じ、細密の注意を以てそれ、適當の荷造を爲すに勉めざる可らず。

九 期日の約束を履行せざる事

是も亦古來我國商工業者の著しき通弊にして、近年幾分か矯正せられたるの觀ありと雖も、尙未だ十分と認むるを得ず。其の原因は主として製造工場の小規模なると、又其の小規模にも係らず兎角安請合を爲すの弊あると、及び前記の如く諸工場間に聯絡交渉の道なきとに在

り。今後は宜しく更に相誠めて期日嚴守の習慣を確立せざる可らず。

十 完全なる販賣組合の設立なき事

以上の諸弊を救済せんが爲めには是非とも完全なる販賣組合の設立なかる可らず。若し大規模の販賣組合を設立して、相當の準備を整へ、相當の機關を置き更に相當の監督と相當の指導を與へなば以上諸弊の如き遠からずして之を一掃するは決して難事にあらざるべきを確信す。

總じて印度人及び南洋在住の支那人等が日本人に對する態度と歐米人に對する態度との間には、實に雲泥の差別あり。是れ半は印度人、支那人等の無智と狡猾とに依るべしと雖も、彼等をして此に至らしめ

たるもの亦實に見識不誠實若くは卑屈にして殊に海外の實情に關する智識の缺乏せる一部日本人の罪と目せざるを得ず。日本人たるもの豈深く相戒めざるを得んや。

又從來日本商人の多くは謂ゆる居据り商人にして偏に商館取引に依頼し従つて資力信用共に少き本邦在住の支那人及び印度人の奸商に籠絡せられ其の犠牲となりて失敗を招きたる者甚だ多し。今後に於ては宜しく深く此點に警戒を加へ成るべく其手を海外に伸ばして直接取引を爲し彼等奸商に乘せらるゝの道を塞がざる可らず。

貿易政策に對する吾人の希望

上記の外政府と當事者と一般社會とに對して吾人の警告せんと欲する所のもの尙多々あり。試に其の數項を左に列記す。

(一) 政府が海外事業家に對し金融上の便宜を與ふるに於て今後一層の注意あらんことを希望す。勿論今日に於ても横濱正金銀行、臺灣銀行等の在るありと雖も其の金融の便宜に浴する者甚だ少く其の之に浴する者と雖も尙多大の不便窮屈を免れず。殊に其の支店設置個所の小數なる到底將來の大發展大躍進に對する機關として十分の信頼を拂ふに足らず。故に今後は政府監督の下に現在諸銀行の營業範圍を擴大し海外支店を増加し尙必要に應じては更に有力なる新銀行

を設立し依つて以て大に金融上の便宜を計り十分なる保護獎勵の途を講せざる可らず。吾人は元來海外事業家の政府に對する依頼心を不可とするものなりと雖も斯くの如きは固より依頼心と稱すべきものに非ず實に當然なる海外發展策の一要件たるを信ず。

(二) 英國は主として自國に使用する製品を其儘外國に輸出し得る便宜と機會とを有す。獨逸は之に反し各地をめぐりに適合する商品を特に製造して輸出する傾向あり。然るに我國に於ては一部分は自家の生産品を輸出し大部分は各地方に適合する特製品を輸出しつゝまゝ英國流と獨逸流とを兼ねざるを得ざるの地位に在り。従つて製造貿易上の苦心尋常ならざるを覺悟せざる可らず。

(三) 我國の實業家は兎角一時の營利と永久の事業とを混同するの弊あり。故に一旦相當の利益を得れば事業の將來に對しては深く意

を致さざるもの滔々として皆是れなり。日清、日露兩戰役後に於ける所謂事業熱勃興の如き明に之を證するものと謂ふべし。即ち永遠の目的を以て企劃されたる眞面目の事業は極めて少く只争うて目前の利益に狂奔したる結果遂に今日に於て工業基礎の大貧弱を曝露し苦き經驗を嘗めたるに非ずや。近時歐洲戰爭の影響を受け輸出入品目に著しき變調を生じ従つて急に化學工業必要の叫聲を聞き之に關する諸種の企劃を見るに至れりと雖も要するに是れ泥棒を捕へて繩を縛ふの類なり。而も後れたるは爲さざるに優れり。單に化學工業のみならず製鐵に於ても造船に於ても其他有らゆる商工業の施設に於ても今後我が實業家たる者常に須らく眼を大局に注ぎ商工業立國の基礎を堅むるの覺悟なかる可らず。

(四) 新發明新意匠に關する現状を見るに國民一般に科學上の智識

經驗に乏しく、又内外の實狀に就て精透の觀察を有せず、爲めに特許局取扱件數は近時頗る増加したるに係らず、眞に我國産業上の發達に裨補するに足るもの極めて少し。政府當局の態度亦兎角形式に囚はれて精神を忘るゝの弊あり。故に特許局が認めて價值なしとするもの、實は却つて大に有益なることあり。又特許局が頗る重大視するものにして、實は却つて陳腐なるあり。斯くの如きは固より特許局のみに限らず、政府の商工業に對し貿易業に對する態度にして之に類するもの甚だ多し。吾人は今後政府が勉めて迂遠なる形式と繁雜なる手續とを避け、敏活に實際的の効果を擧ぐるに注意せんことを希望せざるを得ず。

(五) 我國の外交が常に秘密に失せりとは、吾人の常に耳にする非難なるが、それは問題外として茲には姑く措くとするも、貿易家製造家が其の事業上の智識經驗等を堅く秘密に付するの風あるは、吾人の看過する能はざる所なり。勿論或る程度までは自家の利益を擁護する爲め、秘密も亦必要なるべしと雖も、少しく廣く國家的見地に立たば、事情の許す限り、相互に智識經驗を交換して、共通の利益を計るの覺悟あるべきに非ずや。

(六) 在外領事の改善も亦一箇の緊急案件なり。今日の領事中固より優秀の人物なきに非ずと雖も、其の多くは通商貿易に關する知識經驗を缺くが故に、其の報告及び執務振りは兎角實情に遠く、肯綮に中らざるの誹あり。此點より見れば、外國風に學んで商人領事を置くの必要も亦生せざるを得ず。但し商人が公共の觀念に乏しく眼前の私利に捉はれ、爲めに自己の智識經驗を秘密にするの風ある間は、此の實行は蓋し困難なるべしと雖も、將來は必ず商人領事を置く迄の進歩に達

せざる可らず。

(七) 各地産業機關の改善も亦刻下の急務なり。今日内地各所に商業會議所あり、諸種の組合ありて、調査報告仲介斡旋の機關略備はれるが如しと雖も、其の實狀を察すれば殆ど名義ばかりにして、實際的の効果あるもの極めて少し。是等は今後大に改善して常に新鮮なる血液を活潑に循環せしむるの機關と爲さる可らず。尙海外に於ける視察調査の如きも必ずしも専門家と當事者とに限らず、各方面の人士が盛に各地方に遊歴し、有らゆる方法を以て海外との接觸を切實ならしめ、其の結果一般國民が自然に海外智識を吸収し、延いて對外事務に熟達するに至らんことを期せざる可らず。

(八) 貿易事業と一般社會との接觸を多くする事も亦甚だ必要なり。今や海外に於ける我が邦人の事業徐々として好成績を示し、外人と顔

顔して敢て遜色を呈せざる者無きに非ずと雖も、其の事業たるや内地の一般社會と接觸する所少く、爲めに國家全體として多大の利益を得得するに至らず、殆ど徒勞に歸するが如きもの亦決して少からず。斯くの如きは國家としての貿易觀念が未だ甚だ幼稚なるにも依るべしと雖も、抑も亦當事者及び先覺の人士が平生より此點に關する注意を缺きたるの罪と爲さるを得ず。苟くも國家全體の産業貿易に關する大問題に對し、小數なる直接關係者のみに於て之が解決を試みんと欲するが如きは、迂愚の極と謂ふべし。故に今後は這般の問題に關し平生より社會一般の注意を喚起し、常に貿易事業を以て密接に國民生活に結合せしめ、一たび問題の起るあれば國民全體の注意、社會全體の努力を以て、十分に之を解決せしむるの方策なかる可らず。

(九) 海外實業練習生の制度も亦大に改善を要す。從來の練習生は

其の人物及び派遣地の選定、調査事項の範圍等に於て其當を得ず、又旅費手當等の過少にして實際の必要に應ずるに足らざるが爲め、未だ十分の結果を擧げ得ざるの憾みあり。今後は宜しく完全の組織を立て、適當の監督者を置き、絶えず實業家及び諸種の組合と直接の聯絡を保ち、能く國家的有機體として實効を奏するの施設なかる可らず。勿論經費の如きも必要に應じて相當に之を増加するの覺悟あるべし。

(十) 視察員の派遣に就ても亦大に改善を要する點あり。從來公私より視察員の派遣せらるゝもの多く、殊に近年に至りて大に其數を増加し、中には有識慧眼の人士も少からず、其の視察の結果、頗る聽くべきの意見を有するものありと雖も、之を一般社會に傳へて多數人民の智識を啓發せしむるの方策未だ十分に備はらざるが故に、折角の視察も其の當然の効果を擧ぐるを得ざるは、洵に惜むべき事なりとす。故に

今後は官邊に於ても民間に於ても互に其の視察の收穫を成るべく廣く一般社會に分配普及せしむるに努め、相寄り相助け、以て大目的の遂行を期せざる可らず。

(十一) 觀光團に就ても亦吾人の注文あり。大群の觀光團は其の外形に於て甚だ壯快なりと雖も、其の實益は意外に鮮少なるの遺憾なきに非ず。故に吾人の希望は、適當なる人士を選抜して少數の一團を作り、之に海外の智識經驗ある指導的人物を交へ、勉めて往復滞在の時日を長くし、以て著實有効なる視察研究を遂げしむべし。

(十二) 其他、彼の方面の重要地點に於て、巡回商品陳列所を設くる事、新聞雜誌圖書縱覽所を之に附屬せしむる事、貿易從業者養成を目的とする學校を設くる事、殊に其の學校に於て印度南洋語の學習を獎勵する事等、吾人の希望する件々尙多ありと雖も、今は只其の一端を擧げ

て識者の注意を喚起するに止む。

我國統計の大不備

吾人は更に少しく貿易に關係ある當局者が作成せる統計類の杜撰を指摘するの必要を感ず。

吾人は本書編纂の爲め、各種の統計を蒐集するに際し、實に意外なる困難に遭遇したり。例せば日本海運力の列強に對する比較的地位を知らんと欲し、先づ當該官廳たる管船局に就て開戦後に於ける船舶變化の狀況を求めたれども之を得ること能はず。更に種々關係ある内外の官廳、團體、個人等に就て之に調査したるも十分ならず、遂に自ら各方面に於ける斷片的事實を拾ひ、或は杜撰ながら只其の報道の早きを利として外國の新聞雜誌の記事を集め、之を參酌綜合して纔に間に合

せの統計を作るの已むなきに至れり。

凡そ議論の材料たるべき統計の如きは、當該官廳は勿論、其他關係ある方面に於て豫め十分の調査を完成し、何時にても一般研究者の要求に應ずべきものなり。然るに吾人の如き専門以外の者が自ら不完全なる統計を作り、之に依つて纔に其の論議を立證せざるを得ざるが如きは、洵に不便千萬の事と謂ふべし。

又貿易に關する政府の統計を見るに、大藏省も農商務省も外務省も、略同様な報告を別々に作成しつゝあり。是等は經費不足の嘆聲喧すしき折柄許すべからざる冗費たるのみならず、覽者の爲めにも繁雜の不便を來すこと甚だ多い。既に内閣統計局の存在する以上之を整理統一して編纂するを至當とせずや。

總て統計書類は漫然として之を視れば浩瀚にして精細を極むるに

似たれども、一度或る必要なる事項に就て問題を提出すれば、何等明確なる解答に接する能はざるを常とす。統計は一般に無味乾燥を以て目せらるれども、必要と趣味とを以て之に臨めば、直に活きたる價值を生ず。然るに従來統計にたづさはるもの多くは機械的人間にして所謂死せる材料を羅列するに過ぎざるは痛嘆すべし。夫れ統計は一國のバロメータなり。之に依つて國勢を卜し、之に依つて將來の大計を定むべきものなれば、我が當局に於て十分に力を之に用ひ、一般の工業者も亦大に當局に要求して其の完備を計らんことを切望す。

試に大藏省の外國貿易月表を検するに、昨年十二月を以て終れる印度に對する重要輸出品中に、僅に一萬四千餘圓の屑絲、三萬八千餘圓の漆器の掲げられたる係らず、百六十六萬餘圓の大輸出を見たる茶箱用組板は全然重要品目中より除外されて之を月表中に求むること能

本論

はず。但しこゝに重要輸出品と云ふは世界各國に對する輸出總額の巨大なる者のみを選びたるものにして、印度一國に對する輸出は僅少なれども、尙之を重要品目中に加へたりとせば、其理由なきに非ず。即ち屑絲の如きは輸出總額五百九十五萬圓にして、印度への輸出は前記の如く僅少なりとも尙之を重要品と目するの理由あり。然るに漆器の如きは輸出總額僅に五十六萬圓にして、印度一國に對する茶箱の百六十六萬圓に比し、尙百十萬圓の差あり。されば此の場合、如何にしても茶箱を逸して漆器を擧ぐるの理由あるべきに非ず。然らば關係國との條約に基きて項目を取捨したるの形跡ありやと云ふに、決して然らず。實は當局の吏員が貿易の消長に依つて重要品目に新陳代謝あるべきを思はず、只久しき以前に重要な項目を其儘に踏襲して、其の金額の増減を器械的に記入したるに過ぎず。尤も年表其他には各

項目を明細に區分して掲出せりと雖も、多數人は月表に就て時々の情勢を見んと欲するが故に、月表の斯くの如く不完全なるは大なる不都合と謂はざるを得ず。

元來貿易の本體より見れば、重要品、不重要品の區別を存すべき理由なし。例へば今日に於て僅々一萬圓に満たざるものも、將來貿易の發展に伴ひ頓に如何なる増大を來さんも知る可らず。殊に歐洲開戦後に於ける杜絶品、減退品の代用といふ點より見れば、更に重大の意義を其間に見出さざるを得ず。然れども若し便宜上、月表中に重要品として大宗のみを擇ぶとせば、先づ金額の大なるものを掲出するが當然なり。又假令或る商品の生産地が國內の一部分に限られ、或は其の需要國が世界の一部分に限られたるが爲めに之を貿易品の大宗と稱するに足らずとすとも、而も其の輸出金額の多大なるに於ては、尙之を重要

品と目せざるを得ざるべし。然るに事實上、月表の杜撰なること前記の如しとせば、當局たる者亦何の陳辯ありとするや。

又世界の貿易上に於ける我國の地位を見んと欲せば、我が輸出入と各國の輸出入とを對照し、比較計量して、需要供給消費分配の實況を巨細に檢せざる可らず。然るに此等に關する官廳の諸統計も亦甚だ不備なり。勿論國々に依つて會計起算月を異にするあり、又輸出國と輸入國との間に於て税關帳簿記入價額を異にするあり、自然其間に於て多少の差異を生ずるは當然なれども、其の大體に於ては双方の合致を見るべき筈なり。然るに事實は大に然らず。例へば日本の暹羅に對する關係に就て之を見るに、日本政府の報告に依れば輸入は大に輸出に超過し、最近五年間に於ける平均額輸出に於て八十四萬圓、輸入に於て三百七十二萬圓、即ち輸出一に對し、輸入四倍強の割合を示せり。然

るに暹羅政府の調査として帝國領事館の報告する所に依れば、同五箇年間の同國の輸出平均二十七萬圓、輸入二百二萬圓、即ち輸入は輸出の七倍強の割合を示し、日本輸出入の割合と全く其の比較を顛倒せり。

此の顛倒は如何にして生じたるかと云ふに、日暹の貿易が直接と間接との二方法に依つて行はるゝ結果に外ならず。即ち日暹貿易の或る部分は香港及び一部は新嘉坡を經由して行はるゝものにして、暹羅に在ては日本へ輸出する物品も香港積換の分は香港行として統計に上せ、日本より輸入する物品は香港積換の分と雖も、其の日本品なるが故に之を日本品として統計に上す事あるべく、斯くて兩國輸出入の統計に於て矛盾錯誤を生じ、遂に顛倒の現象を生ずるに至りしなり。

然らば此の矛盾錯誤を香港の統計に照して檢査する方法ありやと云ふに、香港の如き自由港に在つては、英本國との間に於ける輸出入

のみ金額を以て之を現はし、他は總て噸數のみを以て之を現はすが故に、此地に於ける積換品は容易に正確なる計數を知るにこと能はず。されば日暹間貿易の實際額は兩國政府の統計に現はれたるよりも多大なりと信ずべき理由あり、又兩國輸出入の實際額は固より互に一致すべき筈なりと雖も、吾人は未だ之を正確なる統計の上に見ること能はず、却つて前記の如き顛倒の現象に對して徒に奇異の感を抱くに至る。

斯くの如く輸出入の實況、消費分配の状態等は極めて複雑の事象にして、精密確實に之を認識せんことは至難の業なりと雖も、而も統計作成の當局者としては、せめて其の大勢だけなりとも一般人民に曉得せしむるやう、或は説明を附し、或は注釋を施し、覽者をして判斷の根本を過たしめざるの用意なかる可らず。然るに單に日暹間に於ける貿易

の一例を瞥見するに其の不完全斯くの如し。若し各方面各事項に亘つて仔細に之を點檢せば、其の統計資料蒐集の遺漏と、其の編纂方法の不忠實と、其の數字算出の不正確とは、蓋し一々之を指摘するの煩に堪へざるものあるべし。故に吾人は一般統計上に於ける政府の處置に對し殆ど全く信頼の念を失はんとするものなり。而も我が貿易當業者及び經濟學者等は常に平然として斯の如き政府の失態を看過し、何等矯正の手段を講せんとするの意なきに似たり。我が貿易の振はざる亦故ありと謂ふべし。吾人は我が國家興隆の前途の爲め、特に我官民の反省を促さざるを得ず。

獨逸の海外貿易經營方法

吾人は既に我國貿易上の缺點を指摘し、之に對する吾人の希望を縷述したるが、以下更に眼を一轉して獨逸の海外貿易に對する施設經營を一瞥せんと欲す。

獨逸が海外に於ける貿易戰を開始するや、豫め先づ敵地の偵察に主力を傾け、學者實際家をして、單獨に或は聯合して、先づ敵地に入らしめ、其地の氣候、風土、人情、風俗は云ふも更なり、政治、文學、宗教、經濟等あらゆる社會状態を根本的に研究せしむ。學者實際家等にして、敵地の狀況を察偵するや、必ず之を本國に報告す。而して本國に於ては、當該官廳、商業會議所、貿易組合、製造工場、各種銀行、專門學校等の間、互に密接の連

絡を保ち、其の報告を基礎として研究を遂げ、若し尙不備の點あらば、更に命じて再調査を重ねるを常とす。

而して本國に於ては、商工業に關する學術研究の設備遺憾なく發達し、時に或は戰場に於て毒瓦斯を用ふるが如く、商戰に於ても亦極めて辛辣なる手段を弄することなきに非ずと雖も、要するに獨逸が世界の各方面に於て、商戰に奇利を博し、殊に印度南洋に於て顯著なる發展を爲したるもの、皆此の用意周到なる作戰に基因するものとす。

斯くて獨逸の海外貿易は年々長足の進歩を遂げたるが、一説に依れば印度のみに對しても、年々優に五百萬マルクの調査費を支出し、有らゆる俊才を網羅し、尙土人中の才智ある者を利用し、盛に發展策を講じたるものにして、適材適所の原則は茲に最も完全に實現せられ、學校も組合も、工場も、政府も、皆戰時の原則に準據し、脈絡貫通、一糸紊れず、整然

としての堂々たる進軍を繼續いたしなり。されば若し今回の戦争なくんば、彼が印度及び南洋に於ける發展は殆ど測知すべからざるものありしや明瞭なり。

要するに獨逸の今日あるは實に斯くの如き國家的組織的統一なる施設經營の結果にして、我國民の深く反省して之に學ばざる可らざる所なりとす。

人物養成と學術研究の必要

吾人は是に於て先づ人物養成の必要を痛感す。凡そ社會に人物を離れて事業あることなし。事業の發展は其の究竟する所、人物の活動に在り。殊に事業の中心たり、代表者たり、率先者たる人物の如何は、其の發展の過程及び効果に於て甚大の影響を及ぼさざるを得ず。

故に吾人は海外活動の中心人物を養成するに於て、一代の識者が最も細心の注意を拂はんことを切望す。吾人は片々たる百人の小人物よりも寧ろ堅實剛健なる十人の大人物を要求す。單に才氣ありと云ひ、手腕ありと云ひ、若くは温順方正にして忍耐力ありと云ふが如きは、未だ以て吾人の理想とするに足らず。吾人は識見、品性、信念、學力、手腕

健康意氣等に於て、根本的に有力なる所謂底力ある人物を要求す。英國にせよ、獨逸にせよ、植民地若くは海外市場の開拓に成功して能く今日の盛大を致したるもの、當初以來、偉大なる中心人物が其の統率の任に當り、所在活動の傑士を指導激勵して、相共に國家の安危を其の双肩に擔ひ、身命を賭して其の事業に盡瘁したる結果に非ざるなし。殊に獨逸人が其の國民性たる堅忍不拔の精神を持ち、夢寐にも國家的觀念を忘れず、常に一身を以て國家の利益を代表し、一歩一歩、ジリジリ押しに其の勢力を擴大したるは、我が海外活動者の深く鑑みて以て規範と爲さざる可らざる所なり。

然れども吾人は亦、大に専門の知識を尊重せざるを得ず。凡そ商工業に於て十分に海外發展を爲さんと欲するには、是非とも其の基礎根本たる學術研究の完備なかる可らず。今や製造工業、應用化學等を云

云するの聲は四方に喧しと雖も、斯の如き事項は決して一時の空騒ぎを以て其の目的を達し得べきに非ず。現に我國が今日に於て諸種原料の缺乏、製造能力の貧弱に苦むもの、其の根本は即ち遠謀深慮ある學術研究を閑却したるの結果なりとす。勿論或種の材料と或種の製品とは、氣候、風土、地理等の關係上、到底内地に於て之を求め難しとすとも、或る種類と或る程度とに限りては、精苦勉勵の結果、亦必ずしも之を獲るの道なきに非ず。

故に吾人は海外發展の首途に於て、一方に意氣信念を尙ぶ偉大なる人格に期待する所多大なると同時に、又一方には熱心忠實なる學術研究者の輩出を切望せざるを得ず。

教育方針改善の急務

近來學校出身の青年に對する批難の聲甚だ多く、彼等は迂遠にして實務を賤むの風あり、到底實際の用に適せず、寧ろ教育なき小僧上り、若くは職工上りを取るに如かずと論ずる者あり。如何にも一理あるの言に相違なしと雖も、而も二十世紀の天地は到底教育なき人物の活動を許すべきに非ず。現時の學校出身者が多く無能なるの故を以て、直に無教育者の採用に復歸せんとするは、餘りの時代錯誤と謂はざるを得ず。現時の學校出身者の多くが無能の謗を受くるは、決して學問教育其者の罪に非ず、只誤りたる教育方法の結果なり。即ち劃一制度の教育普及が徒に機械的の人物を作りて、其の個性の發揮を阻礙したる

の結果に外ならず。故に今後の人物養成の爲めには、此の誤りたる教育方法の改善を以て最も肝要と爲す。

然るに別に又、現時の青年に對して、或者は其の甚しく懦弱に流れたるを説き、或者は却つて其の時勢と共に進歩せるを説くの二説あり。吾人の見る所を以てすれば、二説共に楯の一面を見たるものに過ぎず。現時の青年は確に時勢と共に進歩せること事實なりと雖も、同時に又甚しく懦弱に流れて、雄心銷磨せること疑ふの餘地なし。故に吾人は徒に時代を咀うて今の青年に絶望する者に非ず。只之を鞭撻し誘導して眞に能く時代の進運に伴はしめんことを期すべきのみ。彼の姑息なる學制改革案の如きは吾人の初より留意する所に非ず。年限短縮の如何の如き、亦固より問ふを須みず。吾人は只日本の現代に於ける國家發展の實狀に適應せる根本的學制の確立を切望するに堪へざ

るのみ。

又世には近時青年間に危険思想の流布せるを説きて、無暗に神經質に之を恐怖嫌惡する者あり。固より國家の存立に有害なる思想行動は大に之を戒めざる可らずと雖も、而も只一概に之を排斥するは不可なり。元來危険思想なるものも、亦是れ過渡時代に於ける複雑なる社會の自然的一產物にして、仔細に之を吟味すれば、其間頗る取るべきの長所なきに非ず。少くとも參考の資料として有益の點なきに非ず。苟も國家的根本思想にして確立せば、假令極端論の發生ありと雖も、固より恐るゝに足らざるなり。故に吾人は如何なる思想學說と雖も、悉く之を攝取し包容して、其の善用に勉め、我が國民中に於ける有らゆる有力の分子を糾合して、此の東洋の盟主たるべき大日本國家の後繼者たらしむるの覺悟なかる可らず。是れ實に大國家大國民の雅量にい

て、亦其の思想知識を豊富にし、強大にし、堅實にする所以なり。

勞働者待遇問題

吾人は尙一事を附記せざるを得ざるを感ず。勞働者待遇の問題是れなり。

前述の如く吾人は根本に於て我國生産力の増大を切望す。假令海運力の進歩あり販路擴張方法の完備ありと雖も若し其の根本に於ける生産力の不足を見んか國家富力の發展は何に依つて之を期するを得んや。

故に吾人は前段に於ても切に學術の研究と人物の養成とを希望せり。然れども直接生産の任に當る者は多數の勞働者に外ならず。是に於て乎勞働者待遇の問題を一考せざるを得ず。

元來我國は勞働賃銀の低廉なるを以て産業發達の有利條件と爲せり。然れども文明の進歩は絶えず一般人民の生活程度を向上せしむ。我國の勞働者と雖も何時迄か能く從來の低廉なる賃銀を以て満足せんや。我國の産業にして若し單に低廉なる賃銀を奇貨として、繼にそれ依つて存立するが如き消極的態度を取るあらば、其の發達の停止期して待つべきなり。

或る論者は曰く、我國の資本家と勞働者との間には、古來優美なる主従の關係あり、勞働者は常に温順勤勉の美德を以て其の主人の爲に勞役すと。美德は固より稱賛すべし。美風は固より保存するを要す。然れども日本既に歐米の大産業制度を輸入す。資本勞働の間、豈亦歐米と同じく新時代の要求に應ずる新形式を取らざるを得んや。勿論、今日に於ては、我が勞働者は甚だ柔順なり。彼等は未だ何等反抗的の

本論

態度を以て積極的に資本家に要求を發したることなし。然れども吾人の見る所を以てすれば此の平靜の外觀は或は却つて他日に起るべき急激なる暴風雨の前兆たらざるなきを知らんや。

故に吾人は天の未だ陰雨せざるに先つて牖戸を綯繆するの先見と遠慮とを切望す。労働者の生活と賃銀との權衡を圖り、商工業の發展に對する調和按排の道を講じ、以て生産能力を發揮するは實に我が生産界永遠の方策にして、同時に又刻下の急務に屬す。されば資本家自身に於て、政府當局に於て、社會先覺の識者に於て、早きに及んで十分之に著眼せざる可らず。

賃銀以外の待遇法に就ても、病傷の救濟、死後の手當、労働時間の制限、女子及び幼年者の保護等、尙幾多の問題ありと雖も、吾人は今一々之を細説するの暇を有せず。只試に一事を言はんか。彼の工場法の如き

其の内容を見るに、寧ろ資本家の利益庇護に偏するの觀なきに非ず。又彼の簡易保險法の如き、極めて姑息不徹底にして、其の社會政策たるの價值甚だ鮮小なるを惜まざるを得ず。而も其の不完不備なる兩法律すら、多數商工業家は尙且つ之を不要とし、有害として排斥せんとする傾向あるに非ずや。吾人は斯くの如き政府と實業家との態度に對して實に深憂を禁じ得ざるものあり。

之を要するに、資本家と労働者とが根本的に協力して初めて生産發展の効果を奏し、能く國家と國民との永久の利益幸福を確保すべきものなるを悟了し、此點に對して有らゆる施設と方案とを怠る可らず。若し然らずんば、何の日か必ず大なる危険が意外の邊より突如として勃發するに至るべきを、吾人は重ねて茲に警告し置くものなり。

尙吾人は之に就て英國棉花栽培協會の一美談を附記し、當事者の參

考に供せんと欲す。英國の紡績業は其の原料の多くを米國の棉花に仰ぎ居れるが、若し不作の場合或は米國の政策に變更を生じたる場合に於ては、英國の受くる打撃は甚大なるべきにより、其の領土内に於て原料を自給せざる可らざるを感じ、此の目的を以て棉花栽培協會の設立を見るに至れり。然るに此の協會は皇室の保護、實業家の寄附等も無きに非ざれども、其の主なる經費は紡績職工の餼金に依りて支辨せらる。何故に職工等が此の費用を負擔するかと云ふに、若し棉花原料が騰貴して紡績事業が打撃を蒙れば、其の結果は直に亦職工等の頭上に降りかゝる問題なるが故に、彼等は自ら進んで平生より此の不時の危難に備へんと欲するに在り。斯くて英國棉花栽培協會は現に英領北亞弗利加に試作地を設け、著々として好成绩を挙げ居れるが、資本家と労働者とが相提携して國家的經營に任ずるの美風は、眞に感服に餘

りあるに非ずや。斯くの如きは畢竟労働者に對する資本家の觀念が進歩せる爲め、労働者も亦自然に此の善美なる態度を示したるものにして、我國の政治家、實業家及び一般識者の極力之に學ばざる可らざる所なりと確信す。

結

論

天職遂行の絶好機會

以上吾人の論述せる所之を要するに左の數項に歸す。先づ我が日
 本は東洋の盟主たるべき國家の天職を痛切に自覺せざる可らず。而
 して確實に其の天職遂行の道途に上るの機會は實に今の時に在り。
 英國が全世界の海上に横行して其覇を稱へたるは、ナポレオン戦争に
 依つて歐洲大陸を封鎖されたるの結果、船舶の餘剩と活動地域の狭小
 とに迫られ、奮勵努力能く其の機會を捕捉し、新活路を他に求めたるも
 の蓋し其の有力なる原因なりとす。然らば則ち今回の大戦争は亦日
 本に取つて東洋南洋に其覇を稱へ更に全世界に大飛躍を試むべき絶
 好の機會ならざるを得ず。然れども斯の如き雄大なる天職の遂行は、

結 論

決して一時の權道に依つて實現せられべきに非ず。又日本が戦争上に得意とするが如き奇襲夜襲強襲の類に依つてのみ其の目的を達し得べきに非ず。必ずや正々堂々たる軍略戦術に依り忍耐あり努力あり組織あり統一ある綿密周到の方策を取らざる可らず。其點に於ては吾人は是非とも獨逸に學ぶ所なかる可らず。獨逸の貿易上に於ける過去の成功は決して單なるミリオタリズムの結果に非ず。實に長き歴史の訓練より生じたる國家的精神の發現なりとす。吾人は敵ながら此點に於て獨逸の天晴れなる武者振を讚嘆せざるを得ず。而して更に斯の如き有力なる獨逸其他の強國が戦後に於て捲土重來を試みんとするに當り日本は飽くまで之に對抗するの決心と覺悟と無かる可らず。

斯の如く吾人の茲に説きたる所固より國家政策の一端に過ぎず。

然れども若し此の一端にして成就し得ざらんか日本國民の前途は既に殆ど希望の光明なしと謂ふべし。今後の社會組織は愈々益々複雑に赴き今後の國家關係は愈々益々錯綜を極む。若し平和克復後の經濟戰に於て其の僥倖にも異常に發展し擴大したる貿易上の地位が一朝にして破綻を生じ蹉躓に遭ふことあらんか其の強烈なる打撃は眞に悚然として恐るべきものあるを疑はず。組織單純なる下等動物に在つては、過つて重大なる身體の一部を缺損すとも尙其の生命を續くるを得べしと雖も組織複雑なる高等動物に在つては、一小末端の負傷と雖も尙且つ直に死亡を招くことなきに非ず。此理は移して以て今後に於ける國家の經濟生活に應用するを得べきに非ずや。吾人が本書の序論に於て輕薄なる自惚心の昂騰を排し重きを負うて隱忍努力する絶大なる責任の感を説きたるもの實に之が爲めなりとす。

然るに世間此種の論議を爲す者、大抵部分的、斷片的、若くは學究的にして、國家民族の根本に涉れる雄大なる統一的の意見抱負あることなし。現時我國人士間に於ける最大の病弊は、何事につけても部分的なるに在り。學者も實業家も、皆それ／＼狭小なる専門の事に急にして、煩瑣なる研究論議に忙はしく、眞に國家的立脚地よりして之を總括し之を統一するの識見を有せず。従つて社會各方面に於て、只眼前の小利を追ひ、細巧を求むるの風あり、輕佻浮薄の氣は一世に瀾漫し、殊に上流識者階級の不眞面目にして、一般國民を指導するの誠意を缺くこと、其罪最も大なり。

故に最近輸出の激増、船舶の活動、軍需品の注文等に依り、我が國正貨の増大を見るが如きに際、會すれば、經濟財政當事者の多數は、只其の不意の幸運に驚喜して、有頂天となり、徒に投機的事業に熱狂して、一

身一家の私利に没頭し、其の比較的眞摯の態度を持する者と雖も、尙且つ之を以て消極的財政處理の具に供せんとするに過ぎず。其の之を好機として、徐ろに國本確立の大策を定めんとする者の如きは、殆ど絶無なりと謂ふべし。吾人の見る所を以てすれば、此の正貨の増大は、即ち國力膨脹の表現にして、我が國家をして更に世界的活動を遂げしめんが爲めの天意に外ならず。果して然らば、吾人は能くこの天意を體得し、此の絶好の機會に於て、國防の充實、貿易の發展、學術の振興、人物の養成等、有らゆる國家永遠の劃策に努力せざる可らば、

今回政府が新設したる經濟調査會の如き固より吾人の大に賛成する所なりと雖も、而も之をして從來ありふれたるが如き單に其名を存して何等の實蹟を擧げ得ざる形式的の一機關たりしめず、眞に能く其の設立の趣旨に基き、世界全體の經濟金融貿易等は固より其他關稅政

策、税目整理等に關する細大一切の事項を不斷繼續して調査研究する。國家的の大機關と爲し、以て日本國民が世界市場に雄飛するの針路を確立し、更に進んで實際的施設の大任に當らんこと、吾人の切望に堪へざる所なり。

世人動もすれば現時に於ける國債の多大なるを憂慮すと雖も、國債の多寡の如きは國家の根柢にして左ほどの影響あるものに非ず。國力にして眞に能く充實し國民にして眞に勤勉し、財政經濟の基礎鞏固にして將來發展の希望を斷じて、此の千歲一遇の機會に於て、何にかは必ず之を償却し盡すを得ん。是れ吾人が一面細心に退嬰萎縮を事とするが如きは斷じて不可なり。是れ吾人が一面細心の注意を警告すると同時に一面大膽なる決心を要求する所以なり。

* * * * *

冀くは日本全國有心の士人、斯の如き我が國民の天職と責任と、危険と、困難と、而して其の最後に於ける大希望と大光明とに對する吾人微衷の存する所を看取せよ。

附

錄

南方經營論

本稿は明治三十六年十一月廿三日神田青年會館に開かれたる東邦協會講談會に於ける予が講演の筆記である。固より當時と今日とは天下の形勢を異にし、従つて本稿の議論中、今日に適合せぬ點もあるが、然しそれに依り却つて過去の状態を知るの便宜もある。又本稿中種々の點に於て本書の内容と重複した所もあるが、然し又兩者相補うて大に意を盡すに足る所もある。殊に本稿は十有餘年前より今日に至る、予の持論の大綱を示すに足るものであるから、聊か陳腐の嫌はあるが、本書の刊行を機會として敢て原文のまゝ、此に附録する次第である。

今日は餘程寒氣が厳しうございます、多分北風が吹くからだらうと思ひますが、兎角北の風は寒さが身にしみるものです。此寒さに對し

ては先づ専ら體内の營養を厚くし活氣を熾んにするより外に防ぐ途はないやうに思はれる。それを姑息にも湯タンポを入れて見たり、或は懷爐を使つて見たり、又今に誰れか、蒲團でも被せて呉れるだらうなど、空頼みをして居ると、遂には頭が逆上して精神がポツとするか、或は風を引いて餘病を惹起すといふ虞れがある。北風の時は十分に用心しなければならぬ。世の中にはこれに類したことが間々あるものです。對露問題の如きも其の一適例と見て宜しい。

さて目下は對露問題が頗る沸騰して居ります。苟も瘋癲白痴でない限りは、此の問題に心を悩まさぬものはあるまいと思ふ。斯の如き場合に際して、時事に縁の遠い南方の經營を論ずるのは、聊か常識を缺いた舉動と認める人もありませう。併しそれは其の人々の批評に任せて置く。私は今日南方の經營といふ一問題を世に提供するのは、最

も時宜に適したる措置であることを確信するが故に、敢て臆面もなく平生の抱懷を諸君の前に吐露するつもりである。之は豫め諸君の諒察を願ひたい。

南方の經營を論ずるに先つて、少しく吾國の現勢を觀察しなければならぬ。抑々吾國が今日の位地に達するまでには、實に種々雜多なる沿革があつた。其間に物質上、並に精神上、直接に支那文明の感化を蒙つたことは最も著しい事實であるが、又間接には印度文明の感化を尠からず受けて居る。此二つの文明は日本國民の本來の性情を陶冶して世界の東隅に於て一種の文明國を現出せしむるに至つた原動力である。尤も舊日本は未だ世界には博く知られて居らなかつた。けれども其時に於て既に、將來世界中に雄飛し得る要素は十分に具つて、只其の時節の到來を待つばかりであつた。恰も善し歐米文明が逆卷く

浪の勢を以て新に吾國を襲うて來た。歴史的に訓練された所の日本國民の實力は、この試験に無事に及第して、世界列國の仲間入りが出来た。維新以來歐米文明が如何に吾國に勢力を逞ふしたか、最早論ずる必要はない。元來歐米文明は太古の文明及び希臘羅馬の文明から脱化したる文明であるから、吾國は取りも直さず新しき文明、舊き文明、東洋の文明、西洋の文明、世界の總ての文明を受繼いだ次第である。此等の新舊東西の文明を日本國民の本能によつて渾然融化せしめ、更に一大特色ある新文明を爲すの天職は實に吾々の双肩にかゝつて居るのである。吾國は今、嘗に東洋といはず實に全世界の將來の運命をも左右すべき楨杆を握つて居るのである。何と貴い地位ではないか。然るに吾が國民の多數は果してこの地位を自覺して居るかどうか。否世の所謂識者ですら果してこれだけの自覺を以て今日に處して居る

かどうか、疑ひなきを得ないのである。之に就ては歐米の識者の日本に對する觀察の主なるものを茲に引照して、諸君と共に眞面目に研究して見たい。又同時に日本の人種論や或る一派に由つて唱道されて居る彼の支那保全、同文同種など、いふ文字に關しても意見を述べたのであるが、今日は時間が許さないから他日に譲りませう。

諸君、吾國の目今の状態はどうでありませうか。一言以て之を評せば唯混沌の時代と稱するの外はない。丁度之を人體に譬へれば、色々澤山の馳走を食ひ過ぎて腸胃加答兒を起して居る姿である。新舊兩思想が未だ十分に消化せられず、身體之が爲めに散々疲勞の狀を呈して居る。之は是非一度は經過しなければならぬ順序であらうけれども、此際餘程用心をせぬと危険症に陥るの恐れがある。試に思想界を御覽なさい。一時は頻にハルトマンを鼓吹したかと思へば、今度はヘル

バルトに限るといひ、やれニイッチェだ、やれトルストイだといふ風に、常に際物思想を弄んで東西を彷徨うて居るではないか。要するに之は彼等に嚴正なる一貫の信念の缺乏して居ることを證明するものである。この現象はどういふ具合に展開するであらうか。今日は眞面目な人ほど此事を憂へて居る。而して其等の人々の多くは失望して仕舞つて居る。故に若し吾國の現状を悲觀的に觀察するならば、其の結論は頗る忌むべき所に到達するかも知れない。併しながら私は悲觀的觀察は好まない、大に樂天的の觀察點に立つて日本の將來を見て居るのである。私の觀察に據るならば、吾が日本の前途は益々多望である。其望は洋々として際涯を知らないのである。決して區々たる杞憂を抱くに及ばぬ。柁の取りやう一つで立派に彼岸に達することが出来やうと思ふ。唯心配なのは、今日政治の局に當つて居るもの、凡

て社會の中心に立つて居るものが、姑息偷安の計をのみ専らにし、苟も國是と信ずる所は、假令天下を擧げて之を敵とするとも斷乎として之を執行するといふ様な強硬なる意思の發現を見ることが出来ない一事である。朝となく野となく、斯の如き偉大なる人格が起つて其の主義方針を明かにしたならば、吾が國民をして世界の一大國民たらしめることは敢て難事ではなからうと思ふ。

目下對外策について頻に世間で議論を闘はして居るが、對外策といふものはツマリ一般の日本の國是或は理想が定まりさへすれば、自ら定まつて行くのである。進歩主義を採るべきか、將た退歩主義を採るべきか、素より議論を要しない。吾國が既に世界の潮流に乗じて此所まで漕ぎ出した以上は、其の潮流に沿うて行き著く所まで行き著かなければならぬ。對露問題の如きは廣き日本の立場から觀察すると、

對外策の一端に過ぎない。併しながら若し對露問題を以て單一の對露問題として觀察すれば、現に吾が目前に蹣つて居る一大問題であつて、決して輕々に看過することは出来ない。此の問題は今日吾が國民が總掛りで論究して居るが、其の意義は多くは滿韓問題以上に出でない様である。併し之は大變な間違である。對露問題は實に滿韓以上の意義があるばかりでなく、其策宜しきを得ると否とは、延いて吾が國家の存立に一大關係を及ぼさなければ休まぬのである。彼得大帝の遺訓の眞偽は詮索の必要はないが、露國の歴史上の事實は到底打消せるものでない。彼は二百年來常に抵抗力の弱い方面に向つて膨脹して居る。而して僥倖にも東洋に對しては今日迄其の暴慾を繼續することが出来た。所が新に日本といふ抵抗力が生じた。然らば其の膨脹を中止するか、或は此の抵抗力を壓迫するか、二者其一を擇ばなければ

ばならぬ。此際露國の内部に於て武斷派の主張が著々勝利の有様を呈し、特にアレキシーフ極東大總督の任命を見た今日、最早や議論を試みる餘地は少しもない。白晝強盜が吾隣りの親戚を襲うて來た場合に當つて尋常一樣の挨拶を以て強盜に應對したり、或は迂遠なる仁義道德の講釋をして聽かす様な愚人が世にあらうか。只最後の手段に訴へて彼を懲らしめ、何處までも當方の本領を發揮するの外に決して道はないのである。要するに對露事件は吾國將來の對外策の瀬踏みである。此の瀬踏みを果し畢へないやうで、どうして本當の對外策を講ずることが出来やうか。殊に況んや南方の經營をやである。果して然らば對露問題の重大なる所以は自ら明瞭である。然るに世の政治家、實業家、教育家は何をして居るか。彼等は只自己の利害からのみ萬事を割り出し、其日暮しの計に逐はれて一時を彌縫することを専務

として居るではないか。眞個國家的統一ある經綸は毛頭も彼等に望むことが出来ないではないか。天下青年の多數を躓かせるものは誰れであるか。一般國民をして其の去就に迷はしめる罪は誰れに歸するか。後世若し明治今日の歴史を編む人があつたならば、彼等は春秋的の筆法を以て其の彈劾を受けるであらう。私は豫言者でなくとも之を斷言することが出来るのである。

私の後に大石正巳君が『清韓に於ける帝國の經營』といふ題で得意の雄辯を振はれる筈であるが、大石君は進歩黨の領袖であつて、又實に現今政界の大立物模範的の大政治家であります。今回清韓漫遊を畢へて歸朝せられ、此の演壇に立つて其の新觀察に基ける清韓經營上の抱負を發表されるといふのは、必ず君が多年の經驗と目下の形勢とに鑑みられ、吾國の頼つて以て立つ所の對外策上の主義方針を明かにし、

政界の現状を打破して大に革進の氣運を促さんが爲め、其の進軍の喇叭を吹奏される譯であらうと思ふ。大石君は公人である。其の言行一致の人であることは私が諸君と共に信じて疑はない所である。故に清韓問題に就ては之を大石君に一任し、私は清韓以外の南方の事を講究しやうと思ふ。併しながら私は南方の經營に關して纏つた意見を述べるつもりではない。唯其の概念の一端だけを諸君に披瀝する考である。若し諸君の中、私の披瀝する概念によつて南方經營策を立てる一助とする人があつたならば、私の望は足りるのである。

吾が臺灣の南に繋がつて居る所は比律賓群島である。比律賓は最早北米合衆國の領分になつて仕舞つた。前年來屢々日本が手を著ける機會があつたのであるが、遂に漁夫の利を占められた。今更愚痴を言ふのは死兒の齡を數へる様なものである。併し米國は新進國の氣

運に乗じ、非常に遠大なる計畫を立て、各方面に手を出して來たから、比律賓の將來は大に刮目すべきものであらうと思ふ。曾て比律賓の志士論客の間に唱へられた獨立問題は、比律賓土人一般の輿論ではなく、只少數者の聲に過ぎぬものであつて、従つて其の運動も遂に効を奏しなかつたが、米國政府は少數者の聲といへども決して之を輕んぜず、出來るだけは彼等志士論客の希望を容れ、著々比律賓全體の進歩發達を企て、居る其の態度は敬服の至りである。若し日本が愚圖々々油斷をして居ると、東洋の勢力は或は比律賓に歸するといふ虞れがある。先んずれば人を制し、後るれば人に制せらる。日本國民は今後一層の注意を比律賓に拂ふやうにしなければならぬ。

その先きは佛領印度支那である。印度支那は佛蘭西の領土になつてから既に相當の年月を費やして居るが、餘り保護政策に偏した爲め、

今日までは著しき發達を見ることが出來なかつた。然るに佛國民の中には植民地擴張派と稱する一派があつて、この印度支那の領土を西隣暹羅方面にまで擴張する野心を抱き、先年來侃々諤々の議論を主張して熱心に佛國政府を動かさうと計つて居る。然るに今日は其の大統領は平和主義の人であり、現内閣もまた平和を國是として居るから、當分決して突飛な擴張を見るやうなことはあるまいと思ふ。併しながら擴張派といひ、平和派といひ、これは程度論に過ぎないのであつて、幾ら平和主義であるからといつても、折角多年苦心經營した領土を無暗に拋棄する氣遣ひは決して無い。今日占領して居る土地だけを守り其の産業を盛にして富強を計るか、或は積極的に領地を擴張して其の勢力を加へるか、こゝが議論の別れる點であるが、兎に角印度支那は將來頗る發達すべき見込がある。殊に彼の東京雲南鐵道の如きは最

も注目すべき事業である。佛國對暹羅葛藤事件も此の鐵道の敷設が其の主眼になつて居るのである。東京雲南鐵道は實に佛國將來の運命に大關係があるばかりでなく、實に又東洋の均勢に及ぼす影響の最も著しきものであらうと信じます。

次に位するのは暹羅。暹羅は南方亞細亞に於ける唯一の獨立國である。其の面積は約二十四萬方哩、人口は約八百萬であるから、決して小國ではない。然るに其の人民は少數の貴族を除けば大部分は無智の土民であつて、中等社會と認むべきものがない。丁度頭が大きくて脚がヒョロ／＼して居る一種の不具同様の國である。貴族は表面だけは豫想外に開けて居るが、多數の土民は今日では到底頼むに足らぬから、一般の土民の教育が普及した將來はいざ知らず、當分の間は逆も目醒ましい發展を見ることは覺束なからうと思ふ。此國は屢々佛蘭

西と衝突の結果、土地の幾分を蠶食され、政治上佛蘭西に押へられて居るが、産業上は英吉利の方が餘程佛蘭西よりも優勢である。又暹羅政府では英吉利人を始め多數の外國人を顧問官、雇吏に採用して居るに係らず、佛蘭西人は今日まで未だ一人も採用して居らぬ。獨逸も近年追々暹羅に勢力を得て來たし、其他丁抹、白耳義、伊太利、北米等の諸國人も、實際上の勢力は遙に佛國人の上に居る。要するに今日の暹羅は、英佛を主とした諸外國の勢力の均衡に由つて辛うじて其の獨立が保たれて居る次第である。暹羅の將來は一箇の疑問であつて、其の國民の力が發達して鞏固なる獨立國になるか、或は分割されるか、或は某強大國に併呑されるか、或は又列國共同の保護國になるか、實に疑問であります。私は無論一日も早く強大なる自主獨立の國となる事を熱望するものであるが、併し疑問は疑問として置くの外はない。

次は海峽植民地である。馬來半島の北半部は暹羅の屬領で、其の南半部は海峽植民地及び英國の勢力範圍である。尤も細密に區別すれば、純粹の英領と、其の保護國と、名義上の獨立國との三つになるが、事實上南半部は英領と見て差支へがない。海峽植民地の土人は極く少數であつて、多數は移住の支那人及び印度人である。主なる産物は錫と種々の農産物である。農産物中護謨の如きは將來殊に發展するであらう。實際馬來半島の産業は移住労働者の力に待つ所が多いのであるが、ツマリ英國は植民的共和政治を馬來半島に實施して居るのであつて、海峽植民地の貿易總額は日本の貿易總額に近いが、之は自由貿易の賜である。東印度貿易の主權は全く英國の手に掌握されて居るものと言つて宜しい。英國は將來海峽植民地と英領緬甸とを鐵道で連絡する計畫であつて、既に其の南端新嘉坡方面は開通した。又半島内

にも數百哩だけは開通して居る。今後馬來半島は農業地として、又鑛業地として、吾が南方に於て益々重要なる地位を占めるに至ることは疑が無い。又クラ地峽開鑿問題の如きも將來必ず起つて來るに違ひないと思ふ。

英領印度はあれだけの面積と人口とを持つて居る大國であるが、其の人種及び宗教が非常に雜駁であつて、土人間の利害感情は互に少しも一致して居らない。今日印度の志士の間には頗る熱心なる愛國家や學者や思想家があつて、英吉利の政治に對し常に不平を抱き其の獨立を主張して居るが、到底一般の印度人は動くまいと思ふ。何故なれば英領になつた以後の土人は、兎に角比較的昔日の印度人よりも幸福を感じて居るからである。然らば獨立恢復の企は畢竟少數志士の躍起運動に歸するであらう。私の觀察が誤つて居ないものとすれば、將

來印度は世界に於て最も樞要なる地位を占め、其の緬甸のラングーンは海陸交通上の中心になるであらうと信ずる。若し陸に於て亞弗利加縦貫鐵道、バグダット鐵道、波斯、阿富汗鐵道、支那、西藏鐵道、東京雲南鐵道、暹羅、緬甸鐵道、馬來半島縦斷鐵道などを頭に置き、海に於ては東西海運の大勢、殊に印度と他の兄弟植民地たる南阿、濠洲、加奈陀等との將來の關係を頭に置いて考へる時には、其の連絡點は何れの地に歸著するか。多少現代の趨勢と世界の地理とに通ずるものは直に領會が出来る筈である。英國が印度の防衛と施設とに全力を盡して居る眞意は、蓋し茲にあるだらうと思ふ。印度の前途また羨ましいではないか。

地圖を披いて見ると、南亞細亞大陸と濠太刺利亞との間に無數の島嶼が星布碁列して居る。この形勝の位置を制して居るのは誰れであるか。和蘭である。蘭領東印度の總面積は七十三萬餘方哩、即ち凡そ

吾國の四倍半である。其中の爪哇島は僅に日本の三分の一に過ぎないけれども、其の人口は約三千萬あり、鐵道は島内縦横に貫通し、其の道路、灌漑、産業は世界に於ける植民地の模範として賞讃されて居る。固より和蘭の植民政策は今日の時代の精神より見れば舊式といふ批難を免れぬ。和蘭の植民政策は極端なる和蘭本位から割出した政策であつて、植民地を本國の利益の爲めに犠牲に供し過ぎた弊害はないではないが、流石に和蘭だけあつて、能くあれだけに開いたものである。併し母國が今日の地位である故、今後は自然の發達は兎に角、和蘭の獨力で彼れ以上の著しき進歩を期望するのは無理な註文である。私は爪哇の現状が頗る吾が幕末の有様に似て居ることに興味を感ずる者である。吾が幕末に際し、事實上階級制度が大に緩み、社會の上流を占め來つた武士の階級は長年月の平和に慣れた結果、生活上の状態に非

常の變化を生じ、これ迄眼下に見降して居つた町人社會に經濟上で支配せられるやうになり、遂に武士の階級は根柢から覆り初まつた次第は、一通り歴史に通じたものは知つて居るが、今日の爪哇でも殆どそれと同じ現象が見えるのである。和蘭人は三百年來爪哇に手を著け、殊に最近六七十年間に長足の進歩をなしたが、彼等の目下の地位は丁度徳川時代の旗本の地位と同じ有様に陥り、其の中の爪哇出生の多數の雜種は、御家人や足輕に似たものになつた。町人に相當すべき社會は誰れであるかといへば、申すまでもなく移住の支那人である。爪哇に在住する和蘭人は、其の中の多數を占めて居る雜種まで計算に入れて、僅に五六萬人であるが、支那人の總數は凡そ三十萬もある。即ち和蘭人全體の五六倍である。何んと盛なものではないか。而してこの支那人は和蘭人が爪哇に渡來した時よりもずつと昔から移住して、段々

段々に勢力を養つて來たのであるから、支那人の爪哇に於ける經濟上の勢力は、逆も和蘭人の比ではない。彼等は有ゆる方面に其の根據を据えて居るのである。此程に勢力の盛な支那人でも、表面上は旗本や御家人の階級に在る和蘭人から常に非常な壓制を受けて居る。併し富は和蘭人の強敵である。旗本などが密に町人の臺所から出入したやうに、和蘭人は公には威張つて居つても、裏面からは著々支那人に制せられて居る。徳川時代の百姓に比較すべきものは多數の爪哇土人である。日本の百姓を爪哇の土人に比較するのは少しく酷であるが、大體上さう見るより外はない。それから薩長に匹敵する新勢力は何者かと問ふに、夫れはツマリ英吉利人と獨逸人とである。英吉利、獨逸の兩國人が宛も幕末の薩長同等の地位と權力とを握つて居るのである。然らば蘭領東印度、殊に爪哇の將來は推して知るべしである。而

して薩長に次ぐべき土肥の地位を占めるものは果して誰れであるか、この答案は是非日本が提出すべき所であらうと思ふ。

濠洲は如何。濠洲も一時は英國より分離する様な氣運に見えたが、近年帝國主義、即ち昔日の帝國主義と全く其の意義精神を異にする新帝國主義の勃興に由つて、本國と政治的軍事的及び經濟的の盟約が成立して頗る強固なものになつた。而して有色人種排斥の聲は日々に益々揚つて來た。これを打破するのは日本人の決心次第である。

布哇はあの通りの叢薈たる一小島であるが、將來世界の交通上海る可らざる地位を占めて居る。パナマ運河開通の曉は太平洋上に於ける交通上の王國になるであらう。布哇には今日六萬以上の同胞が居る。即ち住民の大多數は日本人である。然るに其の勢力は人口と反比例して居るではないか。出稼人根性のものばかりいくら澤山居つ

ても其の成績は知れたものである。布哇問題の解決は一に日本人今後の奮發如何に由るのである。

吾が南方の形勢の一斑は今述べた通りであるが、私の持論に據れば、國家の膨脹には必ず領土の膨脹が伴ふべきものである。是は絶對的の眞理であるとは思はないが、現代世界の大勢であると思ふ。併しながら吾國に取つて最も急務とする所は、先づ其の經濟的發展を遂行するにある。彼の社會主義と帝國主義とは氷炭相容れざる思想のやうに考へる人があるけれども、私は國民の觀念が進歩したならば、此の兩主義を調和させて國家の興隆を計ることが出来ると思ふ。即ち徹底したる社會政策の遂行は國家膨脹の基礎であると信ずるのである。幸に臺灣は吾が領土の中に這入つた。これは吾國が經濟的に南方へ發展する踏臺と心得て宜しいのである。臺灣の南には米領の比律賓

がある。佛領の印度支那がある。蘭領の馬來群島がある。其先きには英領印度もあれば濠洲もある。其他獨逸領、葡萄牙領も雜つて居る。即ち世界中の主なる新舊大小諸國の植民地は期せずして吾が南隣に集つて居るのである。日本が將來執るべき植民政策の比較研究實驗場としては、恐らく吾が南隣位便利な場所はない。植民政策を調べる爲めに態々歐米諸國に出懸ける人もあるが、成程其の理論だけを調べるつもりならばそれでも宜いだらうが、併し實際上の植民政策の利害得失を研究して参考に供しやうと思つたならば、何も歐米迄押しかけて往く必要はない。目前吾國の南隣に眺へ向きの場所があるではないか。植民學者や政治家は何故に近きを棄て、遠きを擇ぶのであるか。マサカ熱帶地方の氣候風土を恐れる爲めばかりではあるまい。それから今日は世の中に随分議論家が多くて、兎角杓子定規の理窟が

行はれるが、臺灣をば飽くまでも吾國將來の膨脹の踏臺にする考があつたならば、其の當局者が比較的適任である限りは、充分に之を信用して其の手腕を振はせるが宜しい。若し大きな失策が有つた時は、初めて人を取換へても遅くはない。吾國が何時迄もグズグズして姑息な議論を弄んで居る間に、世界の局面は段々と迫つて來て、遂に肝腎の好機會を逸して仕舞ふ様になつては取りかへしがつかないではないか。南方に於ける日本の勢力は實際どれ位伸んで居るかといふに、眞に情けない有様である。南隣の各地には到處日本製の雜貨が使用されて居るが、其の地方には必ず日本品の粗製濫造に對する不評判の聲が高い。彼の地方で日本の雜貨を商つて居るのは概ね支那人、印度人であつて、歐羅巴人は其の次位である。肝腎の日本商人は指を折つて數へる程しか居らない。一體日本の商人は内地に居坐つて商賣するの

は上手であるが、海外に出て外國の商人と競争することは極めて下手である。現に日本の輸出貿易の大部分は外國人任せではないか。夫れ故外國から絶えず日本の雜貨に就て小言をいつて來ても、日本の内地の商人はどうにも之を處置することが出來ない。又製造家は製造家で無暗に直段をこざられる爲め、兎角急いで安物を拵へて一時を凌ぐ工風ばかりをして居る。之は強ち製造家のみの罪に歸する譯にはいかぬが、畢竟日本の商工業者が海外の事情に暗く、又海外發展の勇氣に乏しいからのことである。又偶々南洋地方などから直接に日本の商店に注文して來ることがあつても、最初は見本通りのものを送つて遣るが、後になると段々品質を悪くするから、益々日本人の信用を落して、折角芽を出しかけた商賣もパツタリ止んで仕舞ふ様な例が甚だ多い。私は海外に往つて逢ふ人毎にこの苦情を聽かされて、身を切られ

る様に辛いのである。吾國の南方で日本人の事業として稍、見るに足るのは、少數の會社又は銀行の支店と雜貨商店位に止つて居る。臺灣からツイ鼻の先きの厦門や香港ですら斯くの通りである。香港は日本の醜業婦の出稼の玄關口と觀た方が結句ましな位のものである。マニラ、西貢は香港に比べると一層正業者が少くなつて、醜業社會が跋扈して居る。夫れから新嘉坡は三井物産會社の支店が一つと、小さな雜貨店が二つ三つある外に、醫者や職工が少しばかり居る。領事館は香港同様有るには有つても、貿易の發展上格別の役には立たぬ。新嘉坡在留の日本人の總數は千人以上もある中で、七八百人は醜業婦、二百許りは醜業婦に頼つて衣食する別種の社會で、残りのヤット五十人内外が正業者と名乗ることの出来る連中なのである。千人以上の中に五十人しか日本人らしいものが居らぬとは、殘念千萬な譯ではないか。

蘭領東印度には日本の領事館もなければ商店もない。或る會社の出張員が一二人と、時々臺灣の官民が爪哇の製糖事業を視察に出懸けて往く位が關の山で、他は何れも醜業社會の持切りである。英領印度は未だ往つて見ないが、話しに聞けば孟買に領事館と正金銀行の支店と、二三の會社の支店とがあるだけで、餘は例の社會ばかりださうである。カルカッタ然り、ラングーン亦然り。それから濠洲にはシドニーに形式的日本の領事館があり、外に一二の會社の支店や代理店や雜貨店が二つ三つ重要な開港場にあるだけで、此所も矢張り例の別社會の舞臺である。木曜島附近の眞珠採取事業も失敗に歸して仕舞ひ、今日では日本勞働者嚴禁の制札まで立てられた。痛み入つた次第である。今春日本に漫遊に來たコールといふ人は、あちらで大變に日本最良をして呉れるさうで誠に有難いが、日本人が自ら奮發しなければ、折角の

コールの厚意も何の役にも立たないのである。布哇の方はいふだけの價值がない。布哇は前年日本の奮發次第で、何とか面白い關係がつかさうであつたが、米國に合併されて仕舞つた今日では、只口をあいて羨んで居るばかりだ。實に意氣地のない話ではないか。

話題はあとへ戻るが、私は改めて少し暹羅のことを言つて見たい。暹羅には去る明治三十年に初めて稻垣公使が赴任して、間もなく日暹通商條約が締結され、懸て領事館が出來、領事裁判をも行ふやうになつて、國交上に於て日本は相當の位地を占めて居るが、さて實際暹羅に渡航して見ると、日本人の勢力が案外振はないのに驚く。近年日本人が暹羅政府の顧問に採用され初めたのは喜ぶべき現象であるが、尙進んで日本の事業家が續々移住して、商業なり、農業なり、山林業なりに従事する様にしたものである。日本人が暹羅で事業を営まうと思つた

ならば、暹羅政府の方でも大に之を歓迎して、種々の便宜を與へて呉れるのである。次に又蘭領東印度に居る所の勢力ある一般の支那人が、近年日本に心を傾けて來た事實は頗る著しいものであるが、之れに對しても日本では何とか方法を講じて、彼等の望みを叶へてやる様になければなるまいと思ふ。

時間が迫つて來たから簡略に述べるが、海外に於ける日本の醜業婦のことは是非講究して置かなければならぬ。日本醜業婦繁殖の區域は餘程廣いもので、殆ど動植物の分布區域と同様、凡そ其の生存に適して居る所は世界何れの果てをも擇ばない。先づ朝鮮、支那の内地は勿論、南部亞細亞各地、東印度諸島から濠洲に跨がり、西は英領印度より進んで亞非利加の東部地方にまでも蔓り、北は西比利亞の全體を貫いてモスクワ附近まで侵入し、東は布哇から亞米利加の太平洋沿岸にかけ

て、凡そ日本の醜業婦の足跡を印しない所はないのである。其の總數は少く見積つても七八千人以上、或は一萬人を超えて居るだらうと思ふ。何と盛なものではないか。然るに醜業婦に對する世間の觀察は大別すると二つの論點に歸著する様である。其一は所謂正義人道論者であつて、海外出稼醜業婦は日本の體面を傷けるものである、國辱を外に曝らすものであるから、宜しく嚴重に取締つて國外に出さぬ様にするべしといふ説である。其二は所謂豪傑派又は實利論者であつて、凡て醜業婦は日本人の海外膨脹の率先者である、醜業婦が出て其後に無賴漢が附いて往き、雜貨商がまた其後から出かけるといふ順序で、遂に段々と日本の勢力が海外に扶植される様になるから、彼等醜業婦は成るべく奨励して輸出すべしといふ意見である。然るに以上の議論は共に實際を顧みない所の空論であつて、少しも採るに足るの價值がな

いのである。假に正義論者の説の如く、若し海外に出る醜業婦が國家の體面を傷け國辱を曝らすものであるとするならば、日本國內の到處の遊廓や魔窟は何故に先づ撲滅して仕舞はないか。苟も一國が悉く聖人君子ならざる限りは、世に醜業婦の存在は免る可らざるものである。但し醜業を公許するの可否は別問題である。將來日本國民の道徳が高まり、所謂醜業者が其跡を絶つの日があつたならばいざ知らず、今日の日本の状態では、出稼醜業者の産出をのみ禁壓し様としても、到底行ふべからざることである。さればといつて、彼の實利論者などの主張するが如く、醜業婦は國益なり、獎勵すべしといふのも頗る輕薄なる考であつて、決して本氣の沙汰とは思はれない。私が親しく海外に在つて目撃する所に由れば、醜業婦の往く所、必ず無頼漢あり、下等の商人がまた彼等の爲めに友禪や、下駄や、白粉、香水の類を供給に出懸ける

のは事實であるが、所謂惡因緣離る可らずであつて、初め醜業婦に關係したものは、何時までも其の境遇を脱することが出来ないのである。若し海外に於て日本人の事業の見るべきものがあるならば、それは必ず最初からの正業者であつて、醜業婦の導きに由つて正業者が殖えた例しは殆どないのである。この兩者の區劃は大體上最初から判然と立つて居るのである。決してこれを混同してはならない。彼の無垢の少女を誘拐して魔窟に陥れる奴輩は、素より嚴重なる制裁を加へて其の害毒を刈除すべきであるが、今日の吾が警察に之を望んでも無効である。そこで如何に醜業婦問題を解決すればよいかといふに、私の考では、醜業婦自ら進んで出て往くならば勝手に出させるが宜しい。其代りに一方に於て盛に正業者の海外移住を獎勵して、多數の正業者の勢力が遂に醜業者を壓倒するに至るの日を待つのは外はない。現に

暹羅の盤谷府の如きは、日本の正業者が比較的醜業者よりも多数であるから、彼等醜業者は一隅に屏息して仕舞つて、正業者の前に出ることを憚つて居る。之に反し新嘉坡にては、醜業婦の勢力が熾な爲めに、正業者の氣焔が少しも揚らないといふ實況である。どうか有爲なる吾が青年諸君が、其の勇氣を鼓舞して海外膨脹の率先者となり、目前に漲つて居る種々の不潔の空氣を一洗するやうにしたいものである。

全體日本人と歐米人との海外事業の成績を比べると、其間に根本的の相違が見える。南方各地に於ける日本人の事業の擧らないことは、前に述べた通りで甚だ心細い次第であるが、歐米人の事業は大に日本人と異なり、彼等は單に政治上相競うて其の領土を開拓して居るばかりでなく、産業上にも、商業上にも、又學術上にも、頗る確實なる基礎が出来て居るのである。一般の日本人が考へて居るやうな、そんな無難作

なものでは決してないのである。最初歐米人が海外事業に著手するに當つては、有らゆる方面の青年や志士が非常なる熱心と抱負とを齎らして、一たび其の目的地に達するや、如何なる辛苦艱難にも耐へ忍んで、地理、人情、風俗を根本的に取調べ、而して各其の本國の團體や會社や銀行と氣脈を通じ、其等の團體又は會社や銀行は、政府の方針と相俟つて、其の統一を計りつゝ、遠大なる規模を立て、最後の勝利を期する覺悟で進んで居る。日本人の事業とは、まるで目のつけ所も遣り口も違つて居る。歐米人の海外事業に著々成功するのは、當り前の事である。唯外交や兵力のみで領土の擴張や事業の膨脹が出来たやうに思ふのは、飛んでもない間違ひで、外交や兵力の後には、極めて強大なる國民の實力が必ず伴うて居るのである。如何に政治家が敏腕でも、軍人が勇敢でも、若し其の國民に海外を經營する能力が乏しかつたならば、國威

の隆盛は一場の夢と消えて仕舞ふものであることは、萬國の植民史が立派に之を證明して居るのである。

然るに日本人は海外に於ける其の勢力の頗る微弱なる今日、既に一種の病毒に罹つて居るのである。若し茲に一個人があつて、海外に出て多少其の地方の事情に通じ勢力を得る様になると、他の者がこれを猜忌して種々なる中傷譏誣を試み、遂に其人の事業に非常なる妨害を加へるといふが如きは、屢々目撃する事實である。日本人の海外事業の振はない原因は種々あるが、斯様な日本人の性格の汚點から來る現象は、最も忌むべき恐るべきものである。これは畢竟、日本人が目前の利害に敏くして、遠大の希望を缺いて居る證據である。嘗てニコライ師の言といふのを聞いたことがあるが、其言に曰く、日本には伊藤さん山縣さんを初め、立派な政治家が澤山揃つて居られるが、どなたも獨り

で皆一尺づゝの繩を縛ることに精を出されるやうだ、所が其繩を繋いで見ると、結び玉ばかりが澤山に出來て、さて物を縛る段になると役に立たない、私は愚物だから、私も獨りで一尺の繩を縛ることは出來ない、タッタ五寸がせい一ばいだ、併し其縛りかけの儘で他の人に譲るから、他の人は段々に其あとを縛り足して行き、愈々縛り上つた曉には、美事な長い一本の繩が出來て、どんな大きな物でも縛れるやうになると話したさうである。其言の眞偽は保證しないが、併しこれは露西亞人の性格を能く言ひ顯はして居ると思ふ。吾々短氣な小利巧な日本人は十分に此言を味はつて、露西亞人の長所たるこの粘著力を養ひたいものである。

日本の商人の無氣力なる事は前にも述べたから繰返す必要はないが、政府や民間の有力なる會社又は團體等より時々海外へ派遣される

視察員などの無責任なことは言語道斷である。彼等は初め相當の費用を貰つて行くのであるが、日本を出てから何をして居るかといふと、大抵は途中に滯つて緩々見物を済ませ、目的地に著いた時は御役目だけに鐵道旅行を試み、何も調べずに歸つて来る。目的地に居ること一箇月以上のものは極めて稀れで、多くは一週間時としては港に一寸上陸した儘で直ぐ引返す人などもあるやうである。目的地で買調へた書物や寫眞を然るべく剽窃して、それを報告として出すものはまだ上等の部類で、先年歐羅巴に向け或筋から派遣された人の如きは、少しも外國語が分らず、其地の日本領事館に就て其國の産業の事情を尋ねたるに、館員からそれならば今より何年前の官報に當領事館の報告が載せてあるからそれを御覽下さいといはれ、正直にも數年も前の官報を出して貰つて、其儘寫し取つて歸朝したといふ滑稽談もある。中にも

最も甚しいのになると、彼地で吾國の出稼ぎ醜業社會のものに逢つて、彼等の談話を筆記して之を金科玉條として齎らして來るものもある。海外の事情が常に日本國內に誤り傳へられて、種々なる弊害が百出するのは、ソマリかういふ視察員を信用する者の罪である。然らば海外思想及び知識を鼓吹する責任のある地理學者はどうであるかといふに、これまた餘り當てにすることが出來ない。所謂地理學者は綺羅星の如くに列んで居るが、其の著書を見ると事實や統計が誤謬だらけで、讀者を惑はすこと夥しい。専門の學者すらこんな調子では誠に困つたものである。抑々地理學は學問中の生きた學問で、其より學び得た知識は直に實社會に應用すべきものであつて、對外思想の根柢を養ふには、これ程重要な學問はないのである。然るに多くの地理書は只外國の地勢や面積や人口や産物などのことばかりを、古い外國の參考書

などからいゝ加減に焼直した儘で間に合せてある様に見受ける。稀れには學者の中にも眞面目な熱心な人もないではない。屢々海外旅行を企て、研究を凝らすといふやうな篤學者もあることはあるが、惜しいかな、其の研究調査の結果は常に或筋の書棚に塵を被つて居つて、一般の人々は少しも其の恩恵を受けることが出来ない。其餘の學者の多數は、徒に其の地位に戀々として、學者の本分を忘れて居るものが多い。それならばせめて世の中の政治家が海外のことに目を著けて、國民の注意を促がして呉れさうなものであるが、今日の政治家は眼前の黨派争ひや利益問題にのみ熱中して居るから、逆も海外のことを顧みる餘裕がない。望むだけが寧ろヤボである。又新聞雜誌も頼むべからざるものゝ一つであつて、吾國の今日の新聞雜誌は、或る少數のものを除き、海外事情に關する記事に虚偽、誤謬の多きこと、何時も乍ら驚

歎に堪へないのである。新聞や雜誌は最も有力なる實際的國民教育の機關である以上は、常に海外事情の報道に全力を灑ぎ、少くとも多數の讀者をして其の記事に信頼して方向を決せしむる迄に改良を加へなければならぬ。それに先つて最も急務を感ずるのは、新聞雜誌記者の教育である。尙一言學生諸君に希望がある。只今學生諸君が大分見えるやうだから直言するが、私は今日の吾國の青年學生、ほど無氣力な者はないと思ふ。彼等の多數は何の爲めに大學に這入ることを熱望するか。學士の肩書を得て立身出世の資格をつくるのが主眼と察せられる。この資格さへ出来ればあとは勉學を續ける必要はないと思つて居るやうである。偶々進んで勉強する人や歐米に留學する人は、多くは博士の學位が欲しいからである。其他は銀行へ入るか、會社へ入るか、若くは高等文官になるかして、一日も早く支配人なり局長な

りの地位に有りつき、朋友や親戚に誇りたいといふのが一般青年の趨勢である。私は絶對的にこの趨勢を悪いといふのではない。悪いといふのではないけれども、これ計りでは餘りに單調である。今後の青年はモット趣味を廣く持つやうにしなければならぬ。モット大慾を抱くやうにしなければならぬ。就中海外事業に志を立てる人が益々殖えるやうにしなければならぬ。其の手近い獎勵法として、私は學生諸君が暑中休暇を利用して、時々海外漫遊を企てることを勸告するのである。獨立自尊は死せる言葉ではない、生ける實行でなくてはならぬ。

又今日の外交官、領事官制度は是非共改めなければならぬ。現在の制度に據れば、一定の試験によつて初めは外交官補や領事官補に登用し、世界各國に配置する都合になつて居る。所が歐米文明諸國へは希

望者が多いが、所謂未開國や熱帶地方は何時も希望者が尠い。若し自分の希望以外の土地へ振り當てられる人は、赴任前から轉任の運動をするし、赴任後も絶えず本省へ轉任のことを催促するといふ實況だから、さういふ所へ出た連中は少しも腰が落付かない。従つて其の任地の事務に極めて不熱心である。かういふ風だから、何時迄たつても其邊の事情に明るくならない。さういふ領事官の報告がどうして頼むに足るものか。是は制度が悪いからである。今日の制度を改めるに於いては、種々困難なる事情もあらうけれども、併し之はどうしても情實を打ち破つて革新しなければならぬ。外交官、領事官採用法の如きは、最初其の任地を指定して、多數の志願者の中から商工業に通ずる適任者を選び、年功に應じて段々待遇を進め、終に最高の地位を與へるがよろしい。そして短くとも十年や二十年は任地を更へない方針を取

つたならば、自から任地の状況に精通する人も出来るであらう。これは私の新發明でも何でも無い、他の文明國では皆此の方法に則つて居るのである。領事館設置の目的は畢竟茲にあるだらうと思ふ。

要するに、今日の日本は過渡の時代である。一にも歐羅巴、二にも亞米利加と、只無暗に歐米の眞似ばかりをして濟まして置く場合ではないのである。善い事は無論採用するが宜しいが、併し別に自ら工風する所がなくてはならぬ。兎角杓子定規に拘泥するのは日本人の一大弊習である。有爲の人物もこれが爲めに殺して仕舞ふ。常識々々と謂つて餘りに常識を重ずるの結果は、所謂長い物には捲かれよ主義に偏して、遂には平凡陳腐の人間ばかりが出来る様になる。國家といふものはもつと大きいものである。曾て世界を横行濶歩した國であつて、今日は亡んで仕舞つたためはいくらもある。又今日は昔よりも

富んで居りながら、政治上の地位が衰退した國も澤山ある。其の原因は何れにあるにせよ、新進の吾國は大に之に鑑みなければならぬ。

日本人の最大弱點は意思の強固を缺き、事に倦み易きことである。常に目の前に一物を見せて置いて、後ろから之を鞭撻して勵ますやうにするのは世の先覺者の責任である。對露問題鼎沸の今日、私が最も憂へるのは當面の敵ではなくして、却てこの倦み易き氣風である。これを矯めない間は、逆も世界的の事業は成功が覺束ないと思ふ。こ

話が横道へそれたが、是から本題に立歸り、南方の經營に就て是非差當り著手しなければならぬ二三の策を建議して見たい。第一は南方各地の主要なる場所に領事館を増設することである。先刻述べた趣意に基ゐて、今迄領事館の設けのない地方で日本が將來勢力を扶植する目的の圈内には、悉く新に領事館を設置し、傍ら官民共同の産業貿易

獎勵機關のやうなものを之に附屬せしめ、之を日本前進の目標にして、多數の同胞を其の方面へ引付ける方法を講ずるのは急務中の急務である。第二は銀行支店を各地に置くことである。先づ初めは今日、日本と商業上の關係の厚い暹羅、新嘉坡、爪哇、濠洲諸港から手を著けなければならぬ。銀行は素より營利事業であるから、彼我の貿易並に金融關係が平均を得ない今日に於て、多分の資本を海外に投ずることは普通の銀行業者に望む譯にはゆかぬから、これは政府が進んで計畫する必要がある。第三には航路の擴張である。これも普通では算當に合はぬが、政府が十分なる保護を與へて獎勵すべき性質の事業である。曾て和蘭政府では蘭領東印度と支那、日本間との定期航路開始者に對しては、其の本國人たると外國人たるとを問はず、一樣の保護金を與へる内規まで設けられて居つたさうだから、之は是非日本人が率先して

引受けなければならなかつたに拘らず、誰れも顧みない間に今回は和蘭人自ら爪哇、支那、日本汽船會社を設立して、和蘭政府から特別の保護金を受けることに決して仕舞つた。これからはせめて東洋と南洋だけの海運事業は、日本人が主人公になるやうに心掛けて行かなければならぬ。第四は外國語學校の擴張である。英語や獨逸語は態々外國語學校で教授せずとも、外に幾らも其の學校がある。併し今後最も必要の生ずる暹羅、馬來、比律賓、印度諸國の土語の教授は、是非政府の力を假るより致し方がない。第五は植民學校の新設である。海外事業に身を投ずる人物を養成する爲めには、これは、缺くべからざる計畫の一つである。

尙最後に臨み一大建議案を提出してこの演壇を降らうと思ふ。この案は今から約三年前、日本出立に際して、さる席上で披露して置いた

のであるが、未だ其の反響が聞えないから、反響の來るまでは何回でも叫んで見る決心である。即ち其れは『東南洋探検隊』の計畫である。『東南洋探検隊』計畫の趣旨を述べると非常に長くなるから、只其の要點だけを搔撮んで話せばかうである。歐米人は東洋方面に向つても熾に事業を營んで居る。殊に探検の如きは最も早くから著手して居る。併しながら其の調査はまだ頗る不行届の點が多い。尤も純然たる科學上の探検だけならば、彼等に任して置いて、何時かは其の目的を達するであらうが、東洋及び南洋の人情、風俗、宗教に關する深奥なる研究は、人種的關係の最も厚い日本人にして、初めて成功すべき事業であると思ふ。日本人は今まで歐米各國より種々の世話を蒙つて居るから、一度は其の恩報じをしなければならぬ。幸に『東南洋探検隊』の計畫が茲に顯はれた。先づ差し當り之が最も手近い報恩的事業で

あると思ふ。『東南洋探検隊』の組織は日本中の有らゆる第一流の學者、即ち動物、植物、地質、氣象、天文を始め、教育、宗教、哲學、法律、歴史、考古、人類等の諸學界の大家を網羅し、多數の敏腕の助手を隨從せしめ、其の隊長には最も有力なる大人物を戴くことにして、其の探検の方面は南部支那、西藏、本印度、印度支那、馬來群島、濠太刺利亞等の區域である。其の費用は無論五萬や十萬の端金では間に合はぬ。少くとも四五百萬の金は用意しなければならぬが、併し之は決して一時に支出するのではなく、五年、十年乃至二三十年の間に繼續して支出するのであるから、幾ら日本の財政が窮して居つても、年度割三十萬や四十萬の金の繰合せは容易い事であると思ふ。必要上では一隻の戰艦にでも千萬以上の金を抛げ出して惜まないではないか。又探検隊の報告を發表する方法の如きは、新聞や雜誌に掲載するも宜し、或は小冊子となして頒布

するも宜し、或は纏まつた大部の書物にするも宜しい。其の方法は何れに由るも差支へがない。其の結果、内は國民の智見を啓き、志氣を鼓舞し、海外事業熱を盛ならしめ、外は世界をして日本の功績を認めしめ、大に其の尊重を博するに至ることは、また多言を要しないのである。之を外交又は軍事上の功績に比べるならば、固より日を同うして語る可らざるものである。日本が何時迄も島の内閉を籠つて、世界の中から隠居して仕舞ふつもりならば、いざ知らず、若し之に反し、極力膨脹主義を採つて、世界列國に後れぬといふ覺悟があるならば、これ位な計畫は朝飯前の仕事である。或は之を以て突飛な計畫と認める人があるかも知れぬが、私は至極眞面目に之を考へて居るのである。苟も日本人にして之を執行するだけの抱負と手腕と力量とを具へて居るならば、目前の對露問題の如きは、刃を邀へずして自ら解決するであらう

と思ふ。

以上、前後の順序もなく、頗る雜駁、支離滅裂なる演説であつたにかゝらず、長々諸君の清聽を煩はしたことは感謝に堪へませぬ。今より大石君の御話が初まりますから、私は是で御免を蒙ります。

● 正誤表

第七十三ページ 蘭領東印度農産椰子の項通例
 百五十顆内外とあるは五十顆内外の誤りなり

大正五年十月廿一日印刷
 大正五年十月廿六日發行

定價金壹圓

著者 副島 八十六

東京市牛込區喜久井町廿一番地

發行者兼印刷所 渡邊 爲藏

東京市京橋區日吉町十番地

印刷所 民友社

東京市京橋區日吉町十番地

發行所 民友社

東京市京橋區日吉町三番地

不許
 複製

8. 2. 24

363
13

終

